(様式第 10)

厚生労働大臣

殿

令和 元 年 10 月 4 日

学校法人 金沢医科大学
理 事 長 高島 茂樹 (印)

金沢医科大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 30 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒920-0293 石川県河北郡内灘町字大学 1 丁目 1 番地
氏 名	学校法人 金沢医科大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

金沢医科大学病院

3 所在の場所

〒920-0293 石川県河北郡内灘町字大学 1 丁目 1 番地 電話(076) 286 - 3511

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

☒ 1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜 ☐ 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有	無	
内科と組み合わせた診療科名等			
☒ 1 呼吸器内科	☒ 2 消化器内科	3 循環器内科	4 腎臓内科
☒ 5 神経内科	6 血液内科	7 内分泌内科	8 代謝内科
9 感染症内科	10 アレルギー疾患内科またはアレルギー科	11 リウマチ科	
診療実績			
内視鏡内科、腫瘍内科			

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	有	無
外科と組み合わせた診療科名 ①呼吸器外科 2消化器外科 3乳腺外科 4心臓外科 5血管外科 ⑥心臓血管外科 7内分泌外科 ⑧小児外科		
診療実績 形成外科		

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科 ②小児科 ③整形外科 ④脳神経外科 ⑤皮膚科 ⑥泌尿器科 7産婦人科 ⑧産科 ⑨婦人科 ⑩眼科 ⑪耳鼻咽喉科 ⑫放射線科 13放射線診断科 14放射線治療科 ⑬麻酔科 ⑭救急科
--

- (注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有	無
歯科と組み合わせた診療科名 ①小児歯科 ②矯正歯科 3口腔外科		
歯科の診療体制		

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 リハビリテーション科 2 病理診断科 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21
--

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
36 床	0 床	0 床	0 床	799 床	835 床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	341人	115人	388.1人	看 護 補 助 者	105人	診療エックス線技師	0人
歯 科 医 師	6人	3人	6.8人	理 学 療 法 士	34人	臨床検査技師	62人
薬 剤 師	55人	0人	55人	作 業 療 法 士	17人	衛生検査技師	0人
保 健 師	2人	1人	2.4人	視 能 訓 練 士	13人	そ の 他	0人
助 産 師	20人	0人	20人	義 肢 装 具 士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	781人	30人	803人	臨 床 工 学 士	15人	医療社会事業従事者	5人
准 看 護 師	2人	1人	2.7人	栄 養 士	12人	その他の技術員	33人
歯 科 衛 生 士	8人	1人	8.8人	歯 科 技 工 士	3人	事 務 職 員	103人
管理栄養士	17人	0人	17人	診 療 放 射 線 技 師	40人	そ の 他 の 職 員	54人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	22人	眼 科 専 門 医	4人
外 科 専 門 医	16人	耳 鼻 咽 喉 科 専 門 医	8人
精 神 科 専 門 医	4人	放 射 線 科 専 門 医	6人
小 児 科 専 門 医	7人	脳 神 経 外 科 専 門 医	3人
皮 膚 科 専 門 医	3人	整 形 外 科 専 門 医	10人
泌 尿 器 科 専 門 医	5人	麻 酔 科 専 門 医	6人
産 婦 人 科 専 門 医	5人	救 急 科 専 門 医	4人
		合 計	103人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (北山 道彦) 任命年月日 平成 29 年 4 月 1 日

病院長として、医療安全管理責任者を統括する他、医療安全管理委員会委員長、医療問題調査委員会委員長を兼任し、医療事故の防止及び発生時における患者、医療従事者の安全確保を行っている。

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	570.40人	3.50人	573.90人
1日当たり平均外来患者数	907.00人	41.20人	948.20人
1日当たり平均調剤数			667.8剤
必要医師数			116.7人
必要歯科医師数			4.0人
必要薬剤師数			20人
必要(准)看護師数			319人

- (注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
集中治療室	874.6 m ²	鉄骨コンクリート	病床数	26床	心電計	有・無
			人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無
			その他の救急蘇生装置	有・無	ペースメーカー	有・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 295.5 m ² [移動式の場合] 台数 8台		病床数	41床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 61.3 m ² [共用室の場合] 共用する室名 なし					
化学検査室	180 m ²	鉄骨コンクリート	(主な設備) 臨床化学自動分析装置			
細菌検査室	132 m ²	鉄骨コンクリート	(主な設備) 微生物感受性分析装置			
病理検査室	251 m ²	鉄骨コンクリート	(主な設備) 全自動中性緩衝ホルマリン固定液作製装置、迅速自動固定包埋装置、密閉式自動固定包埋装置、凍結マイクローム、安全キャビネット、自動染色装置、自動免疫染色装置、顕微鏡			
病理解剖室	239 m ²	鉄骨コンクリート	(主な設備) 感染症防止対策用解剖台、臓器撮影装置、体重計付ストレッチャー			
研究室	7,906 m ²	鉄骨コンクリート	(主な設備)			
講義室	900 m ²	鉄骨コンクリート	室数	3室	収容定員	630人
図書室	1,858.4 m ²	鉄骨コンクリート	室数	10室	蔵書数	192,578冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

	紹介率	67.4 %	逆紹介率	64.3 %
算出根拠	A：紹介患者の数			10,638 人
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数			11,056 人
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数			966 人
	D：初診の患者の数			17,194 人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
山崎 光章	富山大学附属 病院 麻酔科教授	○	医療安全業務従 事者	有・無	1
鶴澤 剛	金沢大学大学 院法務研究科 准教授		法律学業務従 事者	有・無	1
市川 政枝	金沢星稜大学 人間科学部 元非常勤講師		医療を受ける者	有・無	2
				有・無	
				有・無	
				有・無	

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無		有・無
委員の選定理由の公表の有無		有・無
公表の方法		
病院のホームページに掲載		

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	希少遺伝性疾患の遺伝カウンセリングと遺伝子診断	取扱患者数	84人
当該医療技術の概要 保険収載されている遺伝子検査、指定難病や小児慢性特定疾患の申請に必要な遺伝子検査、その他の責任遺伝子が判明しているメンデル遺伝性疾患の遺伝子検査のうち、現状で”検査会社が受注していないもの”を対象に、遺伝カウンセリングを行った上で、本人や家族の希望に沿う形で遺伝子検査を実施。検査結果は再診時に遺伝カウンセリングと並行して説明。紹介医と連携し、遺伝学的管理指針をレポートにして提供。希少遺伝性疾患患者の医療に役立っている。			
医療技術名	家族性腫瘍症候群の遺伝カウンセリングと遺伝子診断	取扱患者数	14人
当該医療技術の概要 遺伝性乳癌卵巣癌、リンチ症候群、甲状腺髄様癌は頻度の高い家族性腫瘍症候群である。平成30年度より分子標的薬のコンパニオン診断としてBRCA変異やMSI-Hが検出される頻度が増えてきており、患者本人に対するカウンセリング、患者家族に対するカウンセリングと遺伝子検査が急務となっている。しかしリンチ症候群のMMR遺伝子検査には保険適応はなく、BRCA遺伝子検査は再発乳癌にしか保険適応がない。金沢医科大学病院ゲノム医療センターでは院内に遺伝子検査室を設け、低額の自費診療として必要な患者に検査を供給している。			
医療技術名	がん遺伝子パネル検査と二次的所見に対する遺伝医療	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 悪性腫瘍に生じた遺伝子の変化をパネル検査として網羅的に解析し、その結果を基にした最適な化学療法を選択する。しかしながら数百個の遺伝子を網羅的に解析するため、二次的所見として患者が家族性腫瘍症候群やその他の遺伝性疾患を有していることが発覚する場合がある。この際のカウンセリングや、確定診断のための遺伝子検査を提供している。			
医療技術名	高度進行胃癌・根治切除困難胃癌に対する術前化学療法と胃癌根治手術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 (一般・消化器外科) 高度な局所進展や広範なリンパ節転移のために根治切除が困難な胃癌症例の手術治療成績は不良である。しかし近年、切除不能胃癌であっても化学療法で根治切除可能な状態に持ち込める症例が散見される。根治切除困難な胃癌を対象に、外科切除に先立って術前化学療法を行い、根治切除率と生命予後の改善を目指している。			
医療技術名	局所進行膵癌に対する術前放射線化学療法と根治手術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 (一般・消化器外科) 膵臓癌は最も予後不良な癌の一つで、特に手術単独では殆ど根治的治療は望めない。局所進行あるいはボーダーライン切除不能な膵臓癌に対して、術前放射線化学療法を施行し、その後に根治手術を組み合わせる集学的治療を施行している。			
医療技術名	ICG蛍光ガイド下手術	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要 (一般・消化器外科) ICG蛍光を高感度に検出可能な小型装置の開発に伴い、血管・リンパ管・胆管などの可視化や管腔外からの病巣位置特定などを可能とする、ICG蛍光ガイド下手術が試みられている。消化器手術全般を対象に、ICG蛍光法をガイドとした、安全かつ容易な鏡視下手術の新規技術開発を試みている。			
医療技術名	3D内視鏡を用いた子宮体がんに対する腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要 (産科婦人科) 比較的早期の子宮体がんに対して3D腹腔鏡下に子宮全摘術と骨盤リンパ節郭清術・両側卵巣卵管摘出術を行うことで、高い治癒率を維持しつつ手術侵襲の大幅な低減を得ている。			
医療技術名	超重症新生児に対するRapid two stage根治術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 超重症新生児の救命は困難である。このような患者の救命率を上げるため、初回手術として両側肺動脈絞扼術を施行、その後プロスタグランジン投与にて管理して短期間で根治術を施行する			
医療技術名	Vascula compression syndromeに対する気管支外ステント手術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 気管支狭窄症は治癒が極めて困難である。同疾患に対してリング付き人工血管を使用して外部より狭窄気道を固定する外ステントを施行した。			
医療技術名	簡易型人工心肺を使用した超重症心疾患児童に対する術後治療	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 新世紀超重症心疾患患者の術後は極めて不安定である。この期間に簡易型人工心肺を使用し、救命率の向上を目指す。			

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	腎生検組織モノクローナル抗体染色	取扱患者数	52人
当該医療技術の概要(腎臓内科) 従来、腎生検組織の検査は、光顕、電顕に加えて蛍光抗体による免疫グロブリン補体の染色のみが保険適用されてきたが、糸球体構成成分及び病態関連分子に対するモノクローナル抗体(C4d, C3d, HLA-DR, CoL4 α 5/ α 2, HLA-G1, CD45, CoL1)の検索によって、より高度の診断およびこれに基づいた治療が可能である。			
医療技術名	自己免疫性および悪性腫瘍関連膜性腎症の診断と治療	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要(腎臓内科) 膜性腎症の診断において、内因性抗原として膜型ホスホリパーゼ A2 受容体 (M-type phospholipase A2 receptor, PLA2R) および悪性腫瘍関連も指摘されているトロンボスポンディンタイプ1ドメインコンテイング7A(Thrombospondin type-1 domain-containing 7A, THSD7A)および免疫グロブリンGサブクラスを組み合わせたより高度の質的診断およびこれに基づいた免疫抑制療法が可能である。			
医療技術名	選択性血漿交換療法の自己免疫性疾患に対する治療応用	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要(腎臓内科) 従来の血漿交換と比較して、より免疫グロブリンGを選択的に除去するとともにフィブリノーゲン等の高分子蛋白を保持する新たな選択的血漿交換療法を自己抗体と関連する各種免疫疾患(膠原病, 血液疾患, 神経疾患, 腎疾患)に適応するとともに免疫抑制療法あるいは大量 γ グロブリン療法と組み合わせることでより有効かつ安全な治療が可能である。			
医療技術名	内視鏡下甲状腺腫瘍手術、悪性腫瘍手術(全摘、葉峡切除)、パセドウ病甲状腺全摘(亜全摘)手術(両葉)	取扱患者数	39人
当該医療技術の概要 甲状腺腫瘍及びパセドウ病は従来頸部外切開による手術が行われてきたが、内視鏡機器を用いることで、微細な神経や血管などの構造を確認できるため、安全確実に手術を行うことができるようになった。更に術後創部が目立つ頸部についても審美的問題において本術式は対応が可能である。			
医療技術名	経口的咽頭悪性腫瘍手術	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 機能温存の観点から早期咽頭癌に対する経口的切除術は重要である。特に本術式は低侵襲で良好な成績を収めており、更に嚥下に関する筋肉や咽頭などの知覚が保存でき、放射線治療を回避できることから、根治性、機能温存を兼ね備えた新しい治療方法である。			
医療技術名	濾胞性病変の術前診断	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 甲状腺濾胞性病変はこれまで術前において細胞診や画像検査では濾胞癌と濾胞腺腫をはじめとする良性結節性病変との鑑別が困難であった。超音波検査、MRI、RIなどは個々の診断精度は十分ではないが、当該診断手技は各検査を統合したマルチモダリティ法により、濾胞癌の術前診断精度の向上が可能であり限られた時間的、人的資源を効果的に手術へ費やすことが可能となる。			
医療技術名	遺伝子解析による遺伝性内分泌疾患の診断	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要(内分泌・代謝科) 希少遺伝性内分泌疾患につき、末梢白血球からゲノムDNA、または摘出組織からmRNAを抽出、PCR産物のシーケンスにより遺伝子診断を行っている。平成30年度は多発性内分泌s表(MEN)1型、家族性高Ca血症、家族性偽性先端巨大症につき原因遺伝子解析を行った。			
医療技術名	拡大蝶形骨手術	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要(脳神経外科) トルコ鞍近傍に発生する頭蓋底腫瘍や脳腫瘍に対して、経鼻的に蝶形骨頭蓋底を拡大開窓して腫瘍を摘出します。MRIおよびCT合成3D画像にて術中ナビゲーションを行い、4K内視鏡と顕微鏡を使用したハイブリッド手術をおこないます。			
医療技術名	深部脳実質腫瘍に対してナビゲーションと神経内視鏡を用いた脳腫瘍生検法	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要(脳神経外科) 神経内視鏡(硬性鏡)を用いて行う生検法で、ニューロポートシースの内筒にSure Trak®を取り付けナビゲーションにてガイドできるようにする。内視鏡の固定はエンドアーム®を用いて、硬性鏡で観察を行いながら直視下に生検と止血操作を行う。			
医療技術名	胸髄腹側病変に対する低侵襲内視鏡併用手術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要(脳神経外科) 胸髄腹側病変に対し顕微鏡を用いて後外側アプローチで進入、視野が確保できず操作が難しくなった時点で内視鏡手技に移る。本法により低侵襲で安全な手術が可能となる。			

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	髄液および血液リンパ球のフローサイトメリーを用いた炎症性疾患の診断と治療	取扱患者数	142人
当該医療技術の概要(神経内科)			
中枢神経内の炎症や免疫の状態は、通常髄液のルーチン検査として細胞数や蛋白、IgGの値から推定して病態を評価せざるを得ないのが現状である。しかし、髄液採取に際して一部の検体を低温下、低速遠心をかけて髄液細胞を回収し、その細胞の表面および内部の抗原をCD4, CD8, CD25, CD29, CD56, CCR3, CCR4, CCR5, CXCR3等に対するモノクローナル抗体で染色し、血液での結果と比較することにより、どのような役割を担ったリンパ球が髄液内で増加あるいは減少しているかを採取同日に知ることができる。この方法により、中枢神経内で起こっている炎症性病態を的確に把握し、正確な診断と治療選択を行うことで患者予後を改善している。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	4	56	ベーチェット病	39
2	筋萎縮性側索硬化症	31	57	特発性拡張型心筋症	38
3	脊髄性筋萎縮症	3	58	肥大型心筋症	9
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	0
5	進行性核上性麻痺	14	60	再生不良性貧血	26
6	パーキンソン病	154	61	自己免疫性溶血性貧血	1
7	大脳皮質基底核変性症	11	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	1
8	ハンチントン病	0	63	特発性血小板減少性紫斑病	47
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	1
10	シャルコー・マリー・トゥース病	0	65	原発性免疫不全症候群	3
11	重症筋無力症	51	66	IgA腎症	36
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	13
13	多発性硬化症/視神経脊髄炎	78	68	黄色靱帯骨化症	18
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー	12	69	後縦靱帯骨化症	159
15	封入体筋炎	0	70	広範脊柱管狭窄症	3
16	クドウ・深瀬症候群	0	71	特発性大腿骨頭壊死症	81
17	多系統萎縮症	38	72	下垂体性ADH分泌異常症	6
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	50	73	下垂体性TSH分泌亢進症	3
19	ライソゾーム病	2	74	下垂体性PRL分泌亢進症	41
20	副腎白質ジストロフィー	1	75	クッシング病	13
21	ミトコンドリア病	6	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	1
22	もやもや病	27	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	36
23	プリオン病	0	78	下垂体前葉機能低下症	78
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	0	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	4
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	1
28	全身性アミロイドーシス	6	83	アジソン病	0
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	62
30	遠位型ミオパチー	0	85	特発性間質性肺炎	33
31	ペスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	12
32	自己食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンベル症候群	0	88	慢性血栓性肺高血圧症	16
34	神経線維腫症	16	89	リンパ脈管筋腫症	2
35	天疱瘡	5	90	網膜色素変性症	25
36	表皮水疱症	3	91	バッド・キアリ症候群	0
37	膿疱性乾癬(汎発型)	5	92	特発性門脈圧亢進症	1
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	1	93	原発性胆汁性肝硬変	44
39	中毒性表皮壊死症	0	94	原発性硬化性胆管炎	2
40	高安動脈炎	21	95	自己免疫性肝炎	4
41	巨細胞性動脈炎	0	96	クローン病	59
42	結節性多発動脈炎	12	97	潰瘍性大腸炎	137
43	顕微鏡的多発血管炎	28	98	好酸球性消化管疾患	2
44	多発血管炎性肉芽腫症	5	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	1
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	7	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	16	101	腸管神経節細胞減少症	0
47	パージャー病	20	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	1	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	122	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎/多発性筋炎	41	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	68	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	19	107	全身型若年性特発性関節炎	5
53	シェーグレン症候群	53	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人ステル病	3	109	非典型性溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	0	110	ブラウ症候群	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	0	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	3
113	筋ジストロフィー	3	163	特発性後天性全身性無汗症	0
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮皮膚白皮症	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	1
117	脊髄空洞症	2	167	マルファン症候群	0
118	脊髄髄膜瘤	0	168	エーラス・ダンロス症候群	0
119	アイザックス症候群	1	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	0	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	0
122	脳表ヘモジデリン沈着症	0	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性 白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優 性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性び まん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	1	177	有馬症候群	0
128	ピッカーズスタッフ脳幹脳炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	1
129	痙攣重症型(二相性)急性脳症	0	179	ウィリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ピクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリス症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	1
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	0
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	1
142	ミオクロニー欠伸てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	プラダー・ウィリ症候群	0
144	レノックス・ガストー症候群	0	194	ソトス症候群	0
145	ウエスト症候群	0	195	ヌーナン症候群	0
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンプソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	1	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重症型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん 性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	0	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	1	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	0	208	修正大血管転位症	0
159	色素性乾皮症	0	209	完全大血管転位症	0
160	先天性魚鱗癬	0	210	単心室症	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	0	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	0	263	脳腫黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	0	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	0	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	1	266	家族性地中海熱	0
219	ギャロウェイ・モワト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	7	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	1	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0
222	一次性ネフローゼ症候群	33	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	2	271	強直性脊椎炎	2
224	紫斑病性腎炎	2	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	0	274	骨形成不全症	0
227	オスラー病	1	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	0	276	軟骨無形成症	0
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	0
230	肺胞低換気症候群	0	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	2
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	0
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	1	283	後天性赤芽球癆	0
236	偽性副甲状腺機能低下症	1	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンconi貧血	1
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	0	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	0	288	自己免疫性出血病XIII	0
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	0
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	1
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸)	0
244	メーブルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	1
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	0
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	3
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	2
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膀胱炎	0
251	尿素サイクル異常症	0	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	17
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	0
254	ポルフィリン症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシュャー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	0	305	遅発性内リンパ水腫	0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	9

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
307	カナバン病	0	319	セピアブテリン還元酵素(SR)欠損症	0
308	進行性白質脳症	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
309	進行性ミオクローヌステんかん	0	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
310	先天異常症候群	0	322	β ーケトチオラーゼ欠損症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	326	大理石骨病	0
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
316	カルニチン回路異常症	0	328	前眼部形成異常	0
317	三頭酵素欠損症	0	329	無虹彩症	1
318	シトリン欠損症	0	330	先天性気管狭窄症	0

(注) 「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
特定機能病院入院基本料(一般7:1)	新生児治療回復室入院医療管理料
特定機能病院入院基本料(精神13:1)	小児入院医療管理料2
歯科診療特別対応連携加算	回復期リハビリテーション病棟入院料3(休日リハビリテーション提供体制加算)
臨床研修病院入院診療加算	病棟薬剤業務実施加算1
救急医療管理加算1	病棟薬剤業務実施加算2
妊産婦緊急搬送入院加算	後発医薬品使用体制加算4
診療録管理体制加算1	精神疾患診療体制加算
急性期看護補助体制加算25対1(5割未満)	精神科リエゾンチーム加算
看護補助加算2	医師事務作業補助体制加算1(40:1)
療養環境加算	認知症ケア加算
重症者等療養環境特別加算	精神病棟入院時医学管理加算
無菌治療室管理加算1	精神科身体合併症管理加算
無菌治療室管理加算2	地域歯科診療支援病院歯科初診料
歯科外来診療環境体制加算	看護職員夜間配置加算2(12:1)
がん診療連携拠点病院加算	緩和ケア診療加算
栄養サポートチーム加算	患者サポート体制充実加算
医療安全対策加算1	精神科急性期医師配置加算
感染防止対策加算1(注2地域連携加算)、(抗菌薬適正使用支援加算)	.
褥瘡ハイリスク患者ケア加算	.
ハイリスク妊娠管理加算	.
ハイリスク分娩管理加算	.
入退院支援加算1(小児加算)、(入院時支援加算)	.
総合評価加算	.
データ提出加算2	.
特定集中治療室管理料4(広範囲熱傷特定集中治療管理料)	.
新生児特定集中治療室管理料1	.

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・糖尿病合併症管理料	・検体検査管理加算(IV)
・がん性疼痛緩和指導管理料	・遺伝カウンセリング加算
・がん患者指導管理料イ、ロ、ハ	・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
・外来緩和ケア管理料	・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・胎児心エコー法
・糖尿病透析予防指導管理料	・ヘッドアップティルト試験
・乳腺炎重症化予防ケア・指導料	・人工膵臓検査
・院内トリアージ実施料	・皮下連続式グルコース測定
・外来放射線照射診療料	・光トポグラフィー
・ニコチン依存症管理料	・神経学的検査
・療養・就労両立支援指導料 相談体制充実加算	・補聴器適合検査
・がん治療連携計画策定料	・コンタクトレンズ検査料1
・肝炎インターフェロン治療計画料	・小児食物アレルギー負荷検査
・薬剤管理指導料	・内服・点滴誘発試験
・医療機器安全管理料1	・センチネルリンパ節生検(片側)1, 2
・医療機器安全管理料2	・CT透視下気管支鏡検査加算
・医療機器安全管理料(歯科)	・有床義歯咀嚼機能検査、咀嚼能力検査及び咬合圧検査
・総合医療管理加算(歯科疾患管理料)	・画像診断管理加算1
・歯科治療時医療管理料	・画像診断管理加算2
・在宅総合医療管理加算(歯科疾患在宅療養管理料)	・ポジトロン断層撮影、ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・在宅患者歯科治療時医療管理料	・CT撮影及びMRI撮影
・在宅経肛門の自己洗腸指導管理料	・冠動脈CT撮影加算
・持続血糖測定器加算	・心臓MRI撮影加算
・遺伝学的検査	・乳房MRI撮影加算
・抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)	・小児鎮静下MRI撮影加算
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・外来化学療法加算1	・腫瘍脊椎骨全摘術
・無菌製剤処理料	・頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る。)
・心大血管疾患リハビリテーション料(I)	・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・脳血管疾患等リハビリテーション料(I)	・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
・運動器リハビリテーション料(I)	・緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
・呼吸器リハビリテーション料(I)	・人工中耳植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・がん患者リハビリテーション料	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)
・歯科口腔リハビリテーション料2	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療以外の診療に係るものに限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療以外の診療に係るものに限る。)
・救急患者精神科継続支援料	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)
・認知療法・認知行動療法1医師による場合	・内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下パセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)、内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術
・精神科作業療法	・内視鏡下甲状腺悪性腫瘍手術
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	・乳腺悪性腫瘍手術(乳がんセンチネルリンパ節加算1又は乳がんセンチネルリンパ節加算2を算定する場合に限る。)
・医療保護入院等診療料	・乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
・エタノールの局所注入(甲状腺に対するもの)	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・エタノールの局所注入(副甲状腺に対するもの)	・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃・十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)及び膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)
・人工腎臓1	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)(高速回転式経皮経管アテレクトミーカテーテルによるもの)
・導入期加算2及び腎代替療法実績加算	・経皮的中心筋焼灼術
・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・下肢末梢動脈疾患指導管理加算	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
・人工臓器療法	・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
・CAD/CAM冠	・植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術
・有床義歯修理及び有床義歯内面適合法の歯科技工加算	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
・皮膚悪性腫瘍切除術(センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。)	・大動脈バルーンポンピング法(IABP法)
・皮膚移植術(死体)	・バルーン閉塞下経静脈的塞栓術
・組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・体外衝撃波胆石破碎術
・後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)	・腹腔鏡下肝切除術(1, 2のみ)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・腹腔鏡下膵腫瘍摘出術及び腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術	・定位放射線治療
・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術	・保険医療機関間の連携による病理診断
・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)	・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作製
・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による迅速細胞診
・同種死体腎移植術	・病理診断管理加算2
・生体腎移植術	・悪性腫瘍病理組織標本加算
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・口腔病理診断管理加算
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・胃瘻造設術(内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)	・歯科矯正診断料
・輸血管管理料 I	・顎口腔機能診断料(顎変形症(顎離断等の手術を必要とするものに限る。))の手術前後における歯科矯正に係るもの)
・輸血適正使用加算	
・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	
・胃瘻造設時嚥下機能評価加算	
・歯周組織再生誘導手術	
・広範囲顎骨支持型装置埋入手術	
・レーザー機器加算の施設基準	
・麻酔管理料(I)	
・麻酔管理料(II)	
・放射線治療専任加算	
・外来放射線治療加算	
・高エネルギー放射線治療	
・1回線量増加加算	
・強度変調放射線治療(IMRT)	
・画像誘導放射線治療加算(IGRT)	
・体外照射呼吸性移動対策加算	

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
現代の飲食物が関与する細胞内毒性終末糖化産物の生成／蓄積と各種細胞障害機序の解明	竹内 正義	先端医療研究領域	¥7,100,000	補委 (独)日本学術振興会
母胎間シグナル伝達による胎児大脳皮質インターニューロンの産生誘導機構	八田 稔久	解剖学 I	¥2,700,000	補委 (独)日本学術振興会
おとり遺伝子による多分子同時阻害を標的とした純国産型癌遺伝子治療の開発	石橋 浩晃	顎口腔外科学	¥3,300,000	補委 (独)日本学術振興会
携帯端末を用いた膀胱留置カテーテル閉塞予防医師・看護師・介護者協働システムの構築	前田 修子	看護学部	¥2,700,000	補委 (独)日本学術振興会
アルツハイマーモデル動物・辺縁系神経細胞の電気およびCa蛍光活動インピボ同時解析	加藤 伸郎	生理学 I	¥1,800,000	補委 (独)日本学術振興会
療養病床病院におけるスキンケアの質保証: 近未来型皮膚障害予防・管理支援の整備	紺家 千津子	看護学部	¥5,800,000	補委 (独)日本学術振興会
疾患および老化研究に必要な不可欠なストレス可視化マウスの開発	岩脇 隆夫	生命科学研究領域	¥6,000,000	補委 (独)日本学術振興会
胎生期樹状細胞の機能解析と同細胞による脳の炎症性発達異常機構の解明	小内 伸幸	免疫学	¥4,300,000	補委 (独)日本学術振興会
SMS2欠損による腫瘍免疫活性化の分子機構解明とその新規AML療法への応用	岡崎 俊朗	血液免疫内科学	¥5,700,000	補委 (独)日本学術振興会
53BP1の生体維持機構: DNA損傷修復からアポトーシス細胞への免疫寛容誘導まで	岩淵 邦芳	生化学 I	¥6,400,000	補委 (独)日本学術振興会
慢性低酸素性肺高血圧症の新規診断治療法の開発 -高地居住者の分子遺伝学的解析-	水野 史朗	呼吸器内科学	¥3,900,000	補委 (独)日本学術振興会
ダイオキシンによる小児自閉スペクトラム症と体内時計の変化に関する分子疫学的研究	西条 旨子	公衆衛生学	¥2,300,000	補委 (独)日本学術振興会
リン酸化シグナルをターゲットにした非遺伝毒性発がん物質スクリーニング法の開発	吉崎 尚良	小児外科学	¥800,000	補委 (独)日本学術振興会
「糖尿病腎症療養認識パターン分類尺度」を活用した腎症教育プログラムの検証	松井 希代子	看護学部	¥400,000	補委 (独)日本学術振興会
DNA損傷を負った細胞が生死の運命を決定する時期と要因の解明	橋本 光正	一般教育機構	¥1,000,000	補委 (独)日本学術振興会
体力向上と体力に関する知識を理解させることを意図した球技の指導計画の有効性	津田 龍佑	一般教育機構	¥200,000	補委 (独)日本学術振興会
かたちから探る聴覚情報表現	伊藤 哲史	解剖学 II	¥1,000,000	補委 (独)日本学術振興会
転写因子Tfcp2l1を介した129系統マウスES細胞の安定な自己複製機構	大塚 哲	生命科学研究領域	¥1,300,000	補委 (独)日本学術振興会
ヒト海馬の分節性と血管の分布様式における三次元的解析	木南 利栄子	解剖学 II	¥100,000	補委 (独)日本学術振興会
メタボリックシンドロームに対する酸化酵素PRDX4の予防メカニズムの解析	山田 壮亮	臨床病理学	¥1,100,000	補委 (独)日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
メンデル遺伝病の補完遺伝子検査システムの構築と遺伝医療における社会実装	新井田 要	先端医療研究領域	¥1,100,000	補委	(独)日本学術振興会
社会経済格差とがん検診発見、早期診断および生存率との関連	西野 善一	公衆衛生学	¥700,000	補委	(独)日本学術振興会
オキサリプラチンの血液・神経毒性に対する人参養栄湯の臨床効果とその分子機構	元雄 良治	腫瘍内科学	¥700,000	補委	(独)日本学術振興会
SM胃癌に対するセンチネルナビゲーション下内視鏡的全層切除術の開発	伊藤 透	消化器内視鏡学	¥1,100,000	補委	(独)日本学術振興会
糖尿病性心筋症の心筋組織中の終末糖化産物と酸化ストレスの関係	青木 洋文	循環器内科学	¥1,100,000	補委	(独)日本学術振興会
慢性閉塞性肺疾患における気腫多様性と治療反応性に関する分子生物学的解析	水野 史朗	呼吸器内科学	¥1,200,000	補委	(独)日本学術振興会
摂食調節因子nesfatin-1による脂肪組織交感神経活性化機構の解析	谷田 守	生理学Ⅱ	¥1,300,000	補委	(独)日本学術振興会
肝動脈化学塞栓療法における抗癌剤担体ナノ粒子の磁力による集積方法に関する研究	南 哲弥	放射線医学	¥1,100,000	補委	(独)日本学術振興会
塩化ラジウム-223治療におけるリンパ球DNA損傷に関する研究	渡邊 直人	放射線医学	¥800,000	補委	(独)日本学術振興会
新しい全身性拡散強調画像と見かけの拡散係数の肺癌診療への応用とその背景病態の解明	薄田 勝男	呼吸器外科学	¥1,200,000	補委	(独)日本学術振興会
光遺伝学を応用した下丘脳覚神経路の音情報処理回路の解析	小野 宗範	生理学Ⅰ	¥900,000	補委	(独)日本学術振興会
新規画像評価法による嗅覚障害からアルツハイマー病早期診断法の開発	三輪 高喜	耳鼻咽喉科学	¥700,000	補委	(独)日本学術振興会
眼部紫外線被ばく量指標としての醜裂斑程度と老視発症との関係	初坂 奈津子	眼科学	¥900,000	補委	(独)日本学術振興会
太陽光被ばく指標としての初期醜裂斑による近視発症リスク評価	佐々木 洋	眼科学	¥1,300,000	補委	(独)日本学術振興会
アナフィラキシーショックにおけるAngiotensin 2の役割	芝本 利重	生理学Ⅱ	¥1,300,000	補委	(独)日本学術振興会
スフィンゴミエリン合成酵素を標的とした口腔癌のリンパ節転移阻害機序の解明	松本 剛一	顎口腔外科学	¥800,000	補委	(独)日本学術振興会
占領期の養護教諭構想に対するP・HW看護課の介入 -GHQ文書による検証-	滝内 隆子	看護学部	¥500,000	補委	(独)日本学術振興会
マウスを用いたリンパ浮腫発生機序から浮腫軽減や線維化を防止する効果的なケアの開発	浅野 きみ	看護学部	¥1,100,000	補委	(独)日本学術振興会
アクションリサーチに基づいた成人2型糖尿病患者のレジリエンス教育プログラムの開発	村角 直子	看護学部	¥1,000,000	補委	(独)日本学術振興会
深部静脈血栓症予防用弾性ストッキングによる圧迫創傷予防のためのケアシステムの構築	木下 幸子	看護学部	¥600,000	補委	(独)日本学術振興会
好中球分化における糖鎖及びガレクチン9の役割の解明	有川 智博	一般教育機構	¥1,500,000	補委	(独)日本学術振興会
TAR症候群原因遺伝子産物Y14におけるリン酸化制御解析	石垣 靖人	生命科学研究領域	¥1,200,000	補委	(独)日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
Wntシグナル伝達経路に着目した未分類肉腫分類の試み	甲野 裕之	看護学部	¥700,000	補委	(独)日本学術振興会
大腸癌先進部の細胞塊の代謝とリンパ管浸潤	清川 悦子	病理学 I	¥1,200,000	補委	(独)日本学術振興会
サフォードウイルス感染受容体の同定と機能解析	大桑 孝子	微生物学	¥1,700,000	補委	(独)日本学術振興会
やせ, 正常体重, および肥満者の代謝異常発症に影響する健康行動・社会的要因の違い	櫻井 勝	衛生学	¥1,000,000	補委	(独)日本学術振興会
腸内フローラと心機能および動脈硬化、さらに動脈硬化進行との関連	長澤 晋哉	公衆衛生学	¥2,300,000	補委	(独)日本学術振興会
ストレスに対するRCAN1遺伝子の制御機構解明	神田 享勉	金沢医科大学	¥1,100,000	補委	(独)日本学術振興会
グルタミン酸による心房細動誘発機序の解明	高野 信太郎	循環器内科学	¥900,000	補委	(独)日本学術振興会
慢性腎臓病の石灰化冠動脈病変を標的とした新規microRNAsの探索	赤尾 浩慶	循環器内科学	¥1,200,000	補委	(独)日本学術振興会
S-アデノシルメチオニン(SAM)代謝の変異の糖尿病腎症の病態に果たす役割の解明	北田 宗弘	糖尿病・内分泌内科学	¥1,400,000	補委	(独)日本学術振興会
不飽和多価脂肪酸の認知症周辺症状に対する治療効果について	上原 隆	精神神経科学	¥1,000,000	補委	(独)日本学術振興会
HGF/MET axisの本質的制御によるスキルス胃癌の革新的標的治療法の開発	安本 和生	腫瘍内科学	¥1,200,000	補委	(独)日本学術振興会
肺癌術後再発biomarkerの探索とその臨床応用	浦本 秀隆	呼吸器外科学	¥1,300,000	補委	(独)日本学術振興会
胎盤栄養膜細胞の浸潤性細胞への分化制御におけるガレクチンファミリーの役割	東海林 博樹	一般教育機構	¥1,300,000	補委	(独)日本学術振興会
癌特異的プロモーターと磁性ナノ粒子を応用した婦人科癌における末梢血中腫瘍細胞解析	高倉 正博	産科婦人科学	¥1,200,000	補委	(独)日本学術振興会
パーキンソン病における嗅覚障害の分子イメージング研究	志賀 英明	耳鼻咽喉科学	¥900,000	補委	(独)日本学術振興会
水晶体混濁を透明化させる制御機構と治療戦略の解明	久保 江理	眼科学	¥900,000	補委	(独)日本学術振興会
情報通信技術を用いた発達障害児災害危機管理システムの開発	中井 寿雄	看護学部	¥1,300,000	補委	(独)日本学術振興会
地域高齢者の転倒を予防する歩行能力自己管理プログラムの構築	平松 知子	看護学部	¥1,600,000	補委	(独)日本学術振興会
介護職の虐待予防を目指したストレス緩和を図るストレッチプログラムの開発	河野 由美子	看護学部	¥2,400,000	補委	(独)日本学術振興会
職域での快眠音を用いた睡眠支援システムの開発と効果検証	中田 ゆかり	看護学部	¥1,500,000	補委	(独)日本学術振興会
介護保険施設における援助者の負担軽減に向けた新入浴ケア体制の開発と評価	橋本 智江	看護学部	¥1,000,000	補委	(独)日本学術振興会
独居等で療養生活を支える家族のいない中高年がん患者の心理社会的支援に関する研究	久村 和穂	腫瘍内科学	¥800,000	補委	(独)日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
脱ユビキチン化酵素USP10が制御するDNA損傷応答機構の解析	宇谷 公一	微生物学	¥1,000,000	補委	(独)日本学術振興会
ユビキチンリガーゼUBR4の組織特異的生理機能と分子機構	田崎 隆史	生命科学研究領域	¥1,400,000	補委	(独)日本学術振興会
JunB発現を誘導して血管を神経と並走させる神経-血管相互作用の実体の解明	吉富 泰央	生化学Ⅱ	¥1,600,000	補委	(独)日本学術振興会
肺扁平上皮癌・小細胞癌の革新的進展制御法の確立: 細胞膜スフィンゴ脂質からの攻略	上田 善道	病理学Ⅱ	¥1,400,000	補委	(独)日本学術振興会
ベア型レセプターを介した免疫制御機構の解明	齋藤 史路	免疫学	¥1,100,000	補委	(独)日本学術振興会
ストレス応答キナーゼの遺伝子多型と神経変性疾患タウオバチー	平松 伸彦	生命科学研究領域	¥1,900,000	補委	(独)日本学術振興会
血清肝性リパーゼ測定法の臨床意義の確立とその臨床応用	小林 淳二	総合内科学	¥1,200,000	補委	(独)日本学術振興会
ストレスによる攻撃性増強の神経基盤の解明	山本 亮	生理学Ⅰ	¥2,000,000	補委	(独)日本学術振興会
睥がん細胞のexosomeを介した浸潤性伝播の解明とその抑制剤の開発	島崎 猛夫	先端医療研究領域	¥1,300,000	補委	(独)日本学術振興会
日本人におけるスタチン不耐のメカニズム解明と個別化動脈硬化治療の探索	梶波 康二	循環器内科学	¥2,100,000	補委	(独)日本学術振興会
アミオダロン間質性肺炎における肺胞Ⅱ型上皮細胞での肺サーファクタント代謝の解明	長内 和弘	呼吸器内科学	¥1,100,000	補委	(独)日本学術振興会
二重鎖DNA障害による超急性期から慢性期におよぶ移植腎機能障害の解析	横山 仁	腎臓内科学	¥1,600,000	補委	(独)日本学術振興会
脱ユビキチン化酵素USP10が司る造血幹細胞維持機構の解明	樋口 雅也	微生物学	¥1,200,000	補委	(独)日本学術振興会
職業性ストレスがおよぼす健康関連行動や健康状況への長期的影響	石崎 昌夫	衛生学	¥1,100,000	補委	(独)日本学術振興会
職域健康格差と職業要因によるヘルスリテラシーとソーシャルキャピタルの構築の関連	森河 裕子	看護学部	¥2,000,000	補委	(独)日本学術振興会
体位制限のあるがん患者の睡眠障害を改善するタクティールケアプログラムの開発	坂井 恵子	看護学部	¥1,600,000	補委	(独)日本学術振興会
統合失調症患者の過覚醒状態についてのセルフモニタリング技術の開発	深沢 裕子	看護学部	¥1,000,000	補委	(独)日本学術振興会
乳幼児の個別性やニーズに対応できる「災害に備えた保育施設備蓄システム」の開発	山崎 智里	看護学部	¥1,000,000	補委	(独)日本学術振興会
不妊治療の選択・終結過程における意思決定支援カウンセリングツールの開発・検討	矢野 恵子	看護学部	¥1,100,000	補委	(独)日本学術振興会
若年性認知症者就労支援スキル獲得のための職場内就労支援者向け学習プログラムの開発	池内 里美	看護学部	¥2,000,000	補委	(独)日本学術振興会
抗酸化タンパク質の糖化が引き起こす活性酸素の上昇は、NASH発症の原因となるか?	逆井 亜紀子	先端医療研究領域	¥1,400,000	補委	(独)日本学術振興会
毒性をもつ終末糖化産物が引き起こす心筋細胞障害およびそのメカニズムの解明	高田 尊信	先端医療研究領域	¥1,300,000	補委	(独)日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
転写は相同組換え経路のスイッチになりえるか	逆井 良	生化学 I	¥1,000,000	補委	(独)日本学術振興会
新規ホルマウント骨染色法の多重染色解析への展開	坂田 ひろみ	解剖学 I	¥1,100,000	補委	(独)日本学術振興会
遺伝性致死性不整脈におけるトリガー発生機序の解明とin silico予測	津元 国親	生理学 II	¥1,000,000	補委	(独)日本学術振興会
ダイオキシン高暴露成人男性における脳領域体積と領域間結合の変化についての研究	西条 旨子	公衆衛生学	¥1,800,000	補委	(独)日本学術振興会
内皮細胞オートファジー不全が糖尿病腎線維化において演じる分子機構の解明	古家 大祐	糖尿病・内分泌内科学	¥500,000	補委	(独)日本学術振興会
培養HL-1心房筋細胞の実験系を用いた後脱分極誘発不整脈の発生機序と抑制法の解明	九田 裕一	生理学 II	¥1,400,000	補委	(独)日本学術振興会
光トポグラフィー検査による学童期・青年期と成人期のうつ病の同種性・異種性の解明	木原 弘晶	精神神経科学	¥1,100,000	補委	(独)日本学術振興会
心筋血流解析のための薬物動態デジタルファントムの開発	奥田 光一	一般教育機構	¥1,100,000	補委	(独)日本学術振興会
可溶性ウロキナーゼ受容体を指標とするネフローゼ症候群の新たな診断・治療指針の確立	藤本 圭司	腎臓内科学	¥1,400,000	補委	(独)日本学術振興会
糖尿病腎症の発症と進展の抑制に関連するミオカインの同定とその機序の解明	門野 至	内分泌・代謝科	¥1,500,000	補委	(独)日本学術振興会
酵母発現系を用いたMycoplasma hominis病原因子の同定	河合 泰宏	臨床感染症学	¥1,300,000	補委	(独)日本学術振興会
悪性腫瘍の発生・転移においてDPP-4が演じる分子機構の解明	高垣 雄太	糖尿病・内分泌内科学	¥1,300,000	補委	(独)日本学術振興会
最終糖化産物が尿路結石形成に及ぼす分子機構の解明とバイオマーカーの探索	井上 慎也	泌尿器科学	¥1,000,000	補委	(独)日本学術振興会
全脳透明化により見えてくる嗅覚中枢再生の道筋	中村 有加里	耳鼻咽喉科学	¥2,900,000	補委	(独)日本学術振興会
組織学的評価に基づくパーソナライズな耳介矯正装置の開発	宮永 葵子	看護学部	¥500,000	補委	(独)日本学術振興会
外来通院中のがんサバイバーのスピリチュアリティを支える支援モデルの構築	北村 佳子	看護学部	¥2,500,000	補委	(独)日本学術振興会
妊娠期からのポピュレーションアプローチ—育児困難心性尺度の使用可能性の検討—	寺井 孝弘	看護学部	¥1,300,000	補委	(独)日本学術振興会
微視的スケールの分析による発達性協調運動障害児の発達の变化	村上 祐介	一般教育機構	¥900,000	補委	(独)日本学術振興会
生体金属イオンシグナルによる新規サイトカイン産生制御機構の解明	和田 俊樹	免疫学	¥1,000,000	補委	(独)日本学術振興会
ストレス性精神疾患における細胞内ムスカリンM1受容体の役割	益岡 尚由	薬理学	¥1,100,000	補委	(独)日本学術振興会
胎児大脳皮質発生調節機構における胎盤TLR3の役割の解明	塚田 剛史	解剖学 I	¥500,000	補委	(独)日本学術振興会
後発白内障におけるプロテオグリカン・デコリンの関係と機能解析	柴田 伸亮	眼科学	¥700,000	補委	(独)日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
口腔癌の浸潤性増殖における細胞膜活性脂質の役割	加藤 晃一郎	顎口腔外科学	¥1,000,000	補委	(独)日本学術振興会
重症意思表示困難患者のcueの理解による身体ニーズアセスメント尺度の開発	山田 奈津子	看護学部	¥500,000	補委	(独)日本学術振興会
高齢期の脳内炎症を標的とした脳損傷後の神経回路再建へのアプローチ	田中 貴士	解剖学Ⅱ	¥1,400,000	補委	(独)日本学術振興会
冠動脈狭窄と可溶性グアニル酸シクラーゼヘム鉄の酸化還元状態	田和 正志	薬理学	¥1,000,000	補委	(独)日本学術振興会
高転移性ルイス肺癌における血管内皮細胞を模倣した腫瘍擬似血管形成メカニズムの解明	高辻 英仁	生化学Ⅱ	¥600,000	補委	(独)日本学術振興会
血液凝固制御因子ADAMTS13とアンジオテンシンⅡによる突然死に関する研究	小林 正宗	法医学	¥1,800,000	補委	(独)日本学術振興会
CD38抑制によるSirt3活性化を介した糖尿病性腎症の新たな治療法の検討	小倉 慶雄	糖尿病・内分泌内科学	¥1,100,000	補委	(独)日本学術振興会
うつ病に対する反復経頭蓋磁気刺激の有効性と効果予測に関する研究	大久保 裕章	精神神経科学	¥500,000	補委	(独)日本学術振興会
MMP9を標的とした翼状片発症機構の解明と予防薬の開発に関する研究	柴田 奈央子	眼科学	¥700,000	補委	(独)日本学術振興会
ドライアイにおける角膜内在性三叉神経の機能異常の発症メカニズム解明	山下 優香	薬理学	¥1,100,000	補委	(独)日本学術振興会
腸管神経堤由来細胞遊走に対する細胞外マトリックスの役割	安井 良僚	小児外科学	¥1,500,000	補委	(独)日本学術振興会
糖尿病透析患者の「家族と結びつく能力」を育成する患者教育プログラムの開発	岡山 未来	看護学部	¥600,000	補委	(独)日本学術振興会
行動制限最小化に向けた共同意思決定に基づく患者参画型看護モデルの開発	長山 豊	看護学部	¥1,100,000	補委	(独)日本学術振興会
老年期うつ病者のナラティブから創出する治療的ケアプログラムの開発	田中 浩二	看護学部	¥1,300,000	補委	(独)日本学術振興会
スフィンゴミエリン合成酵素欠損による急性骨髄性白血病進行の抑制機構の解明	谷口 真	生命科学研究領域	¥1,000,000	補委	(独)日本学術振興会
保存期慢性腎臓病患者へのコンコーダンスを活用した新しい療養指導モデルの考案	新井 里美	看護学部	¥1,000,000	補委	(独)日本学術振興会
メラノルチンシステムの赤血球造血および骨髄形成機構におけるin vivo解析	増田 なつみ	解剖学Ⅰ	¥1,200,000	補委	(独)日本学術振興会
細胞ストレス応答の解析から迫る「疲労」の分子細胞生物学的実態	赤井 良子	生命科学研究領域	¥1,200,000	補委	(独)日本学術振興会
血液および尿のメタボローム解析と食習慣と血圧との相互関係に関する疫学研究	中川 秀昭	共同利用センター	¥78,000	補委	(独)日本学術振興会
ベトナムのダイオキシンや残留性有機汚染物質の小児ステロイドホルモンへの長期的影響	中川 秀昭	共同利用センター	¥260,000	補委	(独)日本学術振興会
日本型「ロボット共生社会の倫理」のトランスディシプリナリーな探求と国際発信	本田 康二郎	一般教育機構	¥390,000	補委	(独)日本学術振興会
プリベントブルデス(防ぎ得た死)の評価と対策	和藤 幸弘	救急医学	¥650,000	補委	(独)日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
アジア太平洋地域における膜性腎症の診断・治療・疫学に関する調査研究	横山 仁	腎臓内科学	¥390,000	補委	(独)日本学術振興会
コホート内症例対照研究とモデル解析でのリスク分析による肺癌CT検診間隔の個別設定	薄田 勝男	呼吸器外科学	¥195,000	補委	(独)日本学術振興会
機能性一本鎖抗体の創製と終末糖化産物による疾患メカニズムの解明	竹内 正義	先端医療研究領域	¥650,000	補委	(独)日本学術振興会
石垣島・白保竿根田原洞穴遺跡から出土した更新世人骨の骨形態学的研究	加賀谷 美幸	解剖学Ⅱ	¥650,000	補委	(独)日本学術振興会
頭部IVR患者を対象に放射線白内障の線量応答を解明し将来の発症リスクを予測する	佐々木 洋	眼科学	¥1,950,000	補委	(独)日本学術振興会
日本技術哲学の統合研究と国際化	本田 康二郎	一般教育機構	¥312,000	補委	(独)日本学術振興会
統合失調症の認知行動療法の効果検証と作用機序の解明:主観的リカバリーへの焦点化	橋本 玲子	精神神経科学	¥195,000	補委	(独)日本学術振興会
認知症高齢者の転倒予防看護質指標による看護介入プログラムと実践継続システムの開発	平松 知子	看護学部	¥83,482	補委	(独)日本学術振興会
パーキンソン病の外科治療における新規手術標的の実験的探索	本間 智	解剖学Ⅱ	¥100,000	補委	(独)日本学術振興会
治療抵抗性の肝転移に対する球状塞栓物質を用いた肝動脈塞栓療法:多施設共同臨床試験	南 哲弥	放射線医学	¥65,000	補委	(独)日本学術振興会
従来の肝動脈塞栓術不応後の肝細胞癌に対する球状塞栓物質を用いた肝動脈化学塞栓療法	南 哲弥	放射線医学	¥65,000	補委	(独)日本学術振興会
進行肝臓病患者に対するMRIを用いた早期肝細胞癌スクリーニング手技の確立	南 哲弥	放射線医学	¥130,000	補委	(独)日本学術振興会
看護系大学における新人看護教員を支えるメンタリングガイドブックの開発	池内 里美	看護学部	¥130,000	補委	(独)日本学術振興会
大規模職業集団における定年退職前後の生活習慣、保健行動の変化に関する検討	石崎 昌夫	公衆衛生学	¥39,000	補委	(独)日本学術振興会
大規模職業集団における定年退職前後の生活習慣、保健行動の変化に関する検討	森河 裕子	看護学部	¥39,000	補委	(独)日本学術振興会
大規模職業集団における定年退職前後の生活習慣、保健行動の変化に関する検討	櫻井 勝	衛生学	¥39,000	補委	(独)日本学術振興会
抗がん剤治療を受ける患者の静脈穿刺困難をなくす-硬結の予防のための新戦略の開発-	紺家 千津子	看護学部	¥78,000	補委	(独)日本学術振興会
抗がん剤治療を受ける患者の静脈穿刺困難をなくす-硬結の予防のための新戦略の開発-	木下 幸子	看護学部	¥78,000	補委	(独)日本学術振興会
抗がん剤治療を受ける患者の静脈穿刺困難をなくす-硬結の予防のための新戦略の開発-	坂井 恵子	看護学部	¥78,000	補委	(独)日本学術振興会
スフィンゴミエリン/脂質ラフトを標的としたインプラント周囲炎の新たな予防法の開発	谷口 真	生命科学研究領域	¥65,000	補委	(独)日本学術振興会
高齢患者の長期的アウトカムと費用対効果をふまえた早期排尿自立支援システムの構築	平松 知子	看護学部	¥130,000	補委	(独)日本学術振興会
前庭代償の新しい評価法を用いた前庭代償の促進薬の開発:動物モデルを用いた研究	坂田 ひろみ	解剖学Ⅰ	¥130,000	補委	(独)日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
技術哲学の価値論的転回と実践的応用	本田 康二郎	一般教育機構	¥390,000	補委	(独)日本学術振興会
リアノン受容体による、新規な神経細胞自発発火パターン調整機構の統合的解明	伊藤 哲史	解剖学Ⅱ	¥260,000	補委	(独)日本学術振興会
アルツハイマー病モデルマウスにおける発症早期の脳波異常解析	加藤 伸郎	生理学Ⅰ	¥455,000	補委	(独)日本学術振興会
味覚BMIの開発に向けた美味しさを認識する脳内味覚地図の解明	本間 智	解剖学Ⅱ	¥130,000	補委	(独)日本学術振興会
新規末梢血癌細胞検出法を応用した泌尿器癌転移に関するバイオマーカーの開発	高倉 正博	産科婦人科学	¥390,000	補委	(独)日本学術振興会
症状-バイオマーカー-薬理プロファイルから考える新たなせん妄薬物療法に関する検討	大井 一高	精神神経科学	¥130,000	補委	(独)日本学術振興会
スフィンゴ脂質が骨代謝に及ぼすメカニズムに関する研究	岡崎 俊朗	血液免疫内科学	¥130,000	補委	(独)日本学術振興会
新規NF-κB抑制因子による炎症性腸疾患における慢性炎症の制御機構	樋口 雅也	微生物学	¥325,000	補委	(独)日本学術振興会
がん化学療法サバイバーが就労する「働きづらさ」の支障程度を示す枠組の開発	久村 和穂	腫瘍内科学	¥130,000	補委	(独)日本学術振興会
乳癌患者におけるタモキシフェン投与の子宮内膜着床能に及ぼす影響と作用機序の解析	井口 雅史	乳腺・内分泌外科	¥138,926	補委	(独)日本学術振興会
高齢糖尿病患者のアクセプタビリティを考慮した生活習慣病改善の橋渡し研究	古家 大祐	糖尿病・内分泌内科学	¥260,000	補委	(独)日本学術振興会
高齢糖尿病患者のアクセプタビリティを考慮した生活習慣病改善の橋渡し研究	北田 宗弘	糖尿病・内分泌内科学	¥455,000	補委	(独)日本学術振興会
脳脊髄液動態の制御機構を解明し脳代謝産物の頭蓋外への排泄を促進させる	八田 稔久	解剖学Ⅰ	¥390,000	補委	(独)日本学術振興会
間質性肺炎合併肺癌術後の新規治療戦略の構築	薄田 勝男	呼吸器外科学	¥65,000	補委	(独)日本学術振興会
間質性肺炎合併肺癌術後の新規治療戦略の構築	浦本 秀隆	呼吸器外科学	¥65,000	補委	(独)日本学術振興会
統合失調症の急性期におけるオープンダイアログを用いた介入について	長澤 達也	精神神経科学	¥13,000	補委	(独)日本学術振興会
軍事研究を哲学する:デュアルユースの観点から	本田 康二郎	一般教育機構	¥156,000	補委	(独)日本学術振興会
神経免疫疾患のエビデンスによる診断基準・重症度分類・ガイドラインの妥当性と患者QOLの検証	松井 真	神経内科学	¥14,696,000	補委	厚生労働省
非癌、慢性炎症性リンパ節・骨髄異常を示すキャッスルマン病、TAFRO症候群その類縁疾患の診断基準、重症度分類の改正、診断・治療のガイドラインの策定に関する調査研究	正木 康史	血液免疫内科学	¥100,000	補委	厚生労働省
非癌、慢性炎症性リンパ節・骨髄異常を示すキャッスルマン病、TAFRO症候群その類縁疾患の診断基準、重症度分類の改正、診断・治療のガイドラインの策定に関する調査研究	川端 浩	血液免疫内科学	¥100,000	補委	厚生労働省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
非癌、慢性炎症性リンパ節・骨髄異常を示すキャッスルマン病、TAFRO症候群その類縁疾患の診断基準、重症度分類の改正、診断・治療のガイドラインの策定に関する調査研究	石垣 靖人	総合医学研究所	¥100,000	補 委	厚生労働省
自己免疫疾患に関する調査研究	正木 康史	血液免疫内科学	¥500,000	補 委	厚生労働省
IgG4関連疾患の診断基準並びに診療指針の確立を目指す研究	正木 康史	血液免疫内科学	¥500,000	補 委	厚生労働省
特発性大腿骨頭壊死症の医療水準及び患者のQOL向上に関する大規模多施設研究	兼氏 歩	整形外科	¥100,000	補 委	厚生労働省
腎臓病データベースの拡充・連携強化と包括的データベースの構築	横山 仁	腎臓内科学	¥300,000	補 委	厚生労働省
難治性腎障害に関する調査研究	横山 仁	腎臓内科学	¥450,000	補 委	厚生労働省
都道府県がん登録の全国集計データと診療情報等との併用・突合によるがん統計整備及び活用促進の研究	西野 善一	公衆衛生学	¥650,000	補 委	厚生労働省
全国がん登録を基盤とした長期記述疫学研究用特定匿名化情報の整備に関する研究	西野 善一	公衆衛生学	¥400,000	補 委	厚生労働省
HTLV-1母子感染予防に関するエビデンス創出のための研究	西野 善一	公衆衛生学	¥600,000	補 委	厚生労働省
新生児マスキング検査に関する疫学的・医療経済学的研究	西野 善一	公衆衛生学	¥400,000	補 委	厚生労働省
要介護認定データ等を活用した高齢者の状態等の経時的変化の類型化のための研究	森本 茂人	高齢医学	¥900,000	補 委	厚生労働省
生涯にわたる循環器疾患の個人リスクおよび集団のリスク評価ツールの開発を目的とした大規模コホート統合研究	中川 秀昭	総合医学研究所	¥1,550,000	補 委	厚生労働省
地域連携に基づいた医療機関等における薬剤耐性菌の感染制御に関する研究	飯沼 由嗣	臨床感染症学	¥150,000	補 委	厚生労働省
東電福島第一原発緊急作業従事者に対する疫学的研究	佐々木 洋	眼科学	¥21,023,000	補 委	厚生労働省
統合医療についての患者・国民及び医師の適切な選択に資するような情報発信のあり方に関する研究	元雄 良治	腫瘍内科学	¥3,945,000	補 委	(国研)日本医療研究開発機構
適時適切な医療・ケアを目指した、認知症の人等の全国的な情報登録・追跡を行う研究	森本 茂人	高齢医学	¥8,615,385	補 委	(国研)日本医療研究開発機構
新興・再興エンテロウイルス感染症の検査・診断・治療・予防法の開発に向けた研究	姫田 敏樹	微生物学	¥769,232	補 委	(国研)日本医療研究開発機構
難治性皮膚真菌症の診療支援、疫学調査と皮膚科領域の真菌症教育法の開発	望月 隆	皮膚科学	¥461,539	補 委	(国研)日本医療研究開発機構
診療連携を視野にいた、生活習慣病、CKDの診療の質向上に直結する多施設長期コホート研究	横山 仁	腎臓内科学	¥150,000	補 委	(国研)日本医療研究開発機構
マージナルドナー腎移植の安全性に関する新規エビデンス創出研究	横山 仁	腎臓内科学	¥200,000	補 委	(国研)日本医療研究開発機構

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
複数の免疫学的重篤副作用に関する遺伝学的要因及び感染症要因の同定と安全対策への応用に関する研究	梶波 康二	循環器内科学	¥346,154	補 委	(国研)日本医療研究開発機構
児童・思春期における心の健康発達・成長支援に関する研究	川崎 康弘	精神神経科学	¥1,115,385	補 委	(国研)日本医療研究開発機構
抗Neurofascin155抗体陽性慢性炎症性脱髄性多発神経炎の診断基準・治療ガイドライン作成のためのエビデンスの創出	松井 真	神経内科学	¥538,462	補 委	(国研)日本医療研究開発機構
本邦の先天異常発生状況の推移とその影響要因に関する研究	森河 裕子	看護学部	¥153,847	補 委	(国研)日本医療研究開発機構
ICTを活用したDiabetic Kidney Diseaseの成因分類と糖尿病腎症重症化抑制法の構築	古家 大祐	糖尿病・内分泌内科学	¥1,923,077	補 委	(国研)日本医療研究開発機構
法施行前より実施中の特定臨床研究に関する調査	福島 俊洋	臨床試験治験センター	¥4,435,987	補 委	(国研)日本医療研究開発機構
病理診断支援のための人工知能(病理診断支援AI)開発と統合的「AI医療画像知」の創出	山田 壮亮	臨床病理学	¥2,500,000	補 委	(国研)日本医療研究開発機構
カドミウム汚染地域(神通川流域、梯川流域)住民の追跡研究ーカドミウム暴露に伴う生命予後と健康影響ー	中川 秀昭	共同利用センター	¥1,739,131	補 委	日本エヌ・ユー・エス(環境省)
超高周波の電波ばく露による眼部等の人体への影響に関する定量的調査	佐々木 洋	環境原性視覚病態研究部門	¥14,627,000	補 委	総務省
からだを透かして見てみようー透明人間できるかな?ー2018	八田 稔久	解剖学 I	¥390,000	補 委	(独)日本学術振興会
長寿のメニューってできるんけ?2018ー食品の「活性酸素」を消す力を測定しようー	島田 ひろき	看護学部	¥390,000	補 委	(独)日本学術振興会
夏に現れる嫌な虫、蚊ってどんな奴?	村上 学	医動物学	¥390,000	補 委	(独)日本学術振興会
こころの不思議ーこころのケアを体験してみよう!	田中 浩二	看護学部	¥195,000	補 委	(独)日本学術振興会
HGF/MET axisの本質的制御による革新的スキルス胃癌標的治療法の開発	安本 和生	腫瘍内科学	¥2,000,000	補 委	名古屋大学((国研)日本医療研究開発機構)
フッ素添加DLC(ダイヤモンドライクカーボン)を用いた骨内抗菌インプラントの開発	川口 真史	整形外科	¥3,000,000	補 委	名古屋大学((国研)日本医療研究開発機構)
第17回日韓糖尿病性腎症セミナー	古家 大祐	糖尿病・内分泌内科学	¥1,176,000	補 委	(独)日本学術振興会
疾患および老化研究に必要な不可欠なストレス可視化マウスの開発「見えない」を「見える」にする技術へ挑戦	岩脇 隆夫	生命科学研究領域	¥1,200,000	補 委	日本私立学校振興・共済事業団
ストレス応答キナーゼの遺伝子多型と神経変性疾患タウオパチー(ゲノム編集によるヒト病態遺伝子の機能解析)	平松 伸彦	生命科学研究領域	¥400,000	補 委	日本私立学校振興・共済事業団
内因性抗線維化ペプチドAcSDKPの臨床応用への基盤研究	新田 恭子	糖尿病・内分泌内科学	¥400,000	補 委	日本私立学校振興・共済事業団
Regulation and Function of Prdx6 in eye lens during Aging & Oxidative Stress	久保 江理	眼科学	¥1,002,150	補 委	ネブラスカ大学(NIH)

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
研究開発課題5:機能性細胞を用いた生体適合性担体の探索および製造システムに関する研究	下平 滋隆	再生医療学	¥5,423,077	補 委	(国研)科学技術振興機構
アナフィラキシー低血圧時の交感神経興奮を惹起する脳内機構の全容解明	谷田 守	生理学Ⅱ	¥2,000,000	補 委	(公財)ニッポンハム食の未来財団
高脂肪食性肥満の脂肪組織交感神経系を活性化させ代謝を促進させる食品因子の探索	谷田 守	生理学Ⅱ	¥1,000,000	補 委	(公財)食生活研究会
能動学習方略を組み合わせた自己学習養成型・臨床実習前症候学診断学授業カリキュラム開発～事前学習・講義・SGD・ケースプレゼンテーション・シミュレーション・ポートフォリオの効果的組み合わせ～	高村 昭輝	医学教育学	¥300,000	補 委	(公財)医学教育振興財団
喫煙が血管系における可溶性グアニル酸シクラーゼ酸化還元状態に及ぼす影響	田和 正志	薬理学	¥500,000	補 委	(公財)喫煙科学研究財団
アセチルコリントランスポーターおよび細胞内アセチルコリン受容体を介するアルツハイマー病治療の戦略	村松 郁延	薬理学	¥5,000,000	補 委	(公財)喫煙科学研究財団
アナフィラキシー低血圧による交感神経促進機構の全容解明と治療法への応用	谷田 守	生理学Ⅱ	¥2,000,000	補 委	(一財)旗影会
喫煙行動と統合失調症における遺伝的共通性の解明	大井 一高	精神神経科学	¥500,000	補 委	(公財)喫煙科学研究財団
過疎地域における地域包括ケアシステムサポートのための多職種連携生涯学習モデルの開発	高村 昭輝	医学教育学	¥800,000	補 委	(公財)杉浦記念財団
胎生期における樹状細胞の分化機構と免疫学的意義の解明	齋藤 史路	免疫学	¥2,000,000	補 委	(公財)武田科学振興財団
子宮・胎盤の神経堤細胞が絨毛がんの発生母地となる可能性の検証	坂田 ひろみ	解剖学Ⅰ	¥1,000,000	補 委	北國がん研究振興財団
スフィンゴリン脂質および幹細胞を標的とした肺癌の新たな治療戦略:スフィンゴリン脂質の発現・蛋白機能修飾による浸潤・転移機序と肺癌の幹細胞の活性化に関する研究	本野 望	呼吸器外科学	¥1,000,000	補 委	北國がん研究振興財団
言語音情報の脳内圧縮機構に関する基礎的研究:音の時間変化情報の脳内符号化	伊藤 哲史	解剖学Ⅱ	¥1,000,000	補 委	(公財)大川情報通信基金
低分子化合物を用いたダイレクトプログラミングによる樹状細胞樹立と新規がん免疫療法の創世	小内 伸幸	免疫学	¥2,000,000	補 委	ブリストル・マイヤーズ スクイブ㈱
腸上皮化生発症の分子基盤の解明	森 健太郎	神経内科学	¥600,000	補 委	(公財)金原一郎記念医学医療振興財団
耳鳴りの脳内発生機構を明らかにし、根治につなげる	伊藤 哲史	解剖学Ⅱ	¥1,000,000	補 委	(公財)大和証券ヘルス財団
胎生期における樹状細胞の分化機構と炎症性疾患における役割	齋藤 史路	免疫学	¥3,000,000	補 委	(公財)持田記念医学薬学振興財団
スフィンゴミエリン合成酵素阻害による腫瘍免疫活性化を介した悪性リンパ腫の肝浸潤抑制機構の解明とその臨床応用	岡崎 俊朗	血液免疫内科学	¥500,000	補 委	(一財)日本血液学会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
Down症候群に合併した一過性骨髄異常増殖症(Transient abnormal myelopoiesis, TAM)の予後の臨床的検討	岡田 直樹	小児科学	¥400,000	(補) 委 (公財)森永奉仕会
次世代型脳内刺激式補聴器開発のための脳内神経回路解析	伊藤 哲史	解剖学Ⅱ	¥1,000,000	(補) 委 (公財)鈴木謙三記念医科学応用研究財団
胎生期における樹状細胞の包括的解明—臓器移植治療や炎症性疾患の治療に向けて—	齋藤 史路	免疫学	¥2,000,000	(補) 委 (公財)内藤記念科学振興財団
血液細胞分化経路を決定する新規分子の同定と分化制御機構の解明	小内 伸幸	免疫学	¥3,000,000	(補) 委 (公財)内藤記念科学振興財団
胎生期樹状細胞の分化機構と先天性疾患における役割	齋藤 史路	免疫学	¥2,000,000	(補) 委 (公財)アステラス病態代謝研究会
小胞体ストレス応答反応の解析から挑む「過食」の分子メカニズム	赤井 良子	生命科学研究領域	¥500,000	(補) 委 (公財)ホクト生物科学振興財団
低分子化合物誘導性分化リプログラムによる樹状細胞の樹立と新規がん免疫療法の創出	小内 伸幸	免疫学	¥500,000	(補) 委 (公財)橘勝会すこやか健康応援団
肺腺癌に対する、抗酸化酵素ペルオキシレドキシシン(PRX4)の予防メカニズムの解析	山田 壮亮	臨床病理学	¥500,000	(補) 委 (公財)橘勝会すこやか健康応援団
胎児期における樹状細胞の分化制御機構解明と炎症性疾患における役割の解明	小内 伸幸	免疫学	¥1,000,000	(補) 委 (公財)先進医薬研究振興財団
民族間差を超えた統合失調症と認知機能における遺伝的共通性の解明	大井 一高	精神神経科学	¥1,000,000	(補) 委 (一財)横山臨床薬理研究助成基金
ミトコンドリア異常を捉える生体イメージング技術の開発	岩脇 隆夫	生命科学研究領域	¥600,000	(補) 委 (公財)光科学技術研究振興財団
胎生期樹状細胞における分化制御機構と疾患制御機構	齋藤 史路	免疫学	¥5,000,000	(補) 委 (公財)上原記念生命科学財団
縫線核内側部ドーパミンニューロンによる中枢性疼痛反応調節	山本 亮	生理学Ⅰ	¥1,500,000	(補) 委 (公財)中富健康科学振興財団
磁気遺伝学的手法を用いた耳鳴治療のシーズ開発	小野 宗範	生理学Ⅰ	¥1,000,000	(補) 委 (公財)磁気健康科学研究振興財団
地域におけるがん経験者のアピアランス支援体制の構築に関する研究:理美容家を対象とした教育プログラムの開発	久村 和穂	腫瘍内科学	¥1,667,500	(補) 委 (公財)在宅医療助成 勇美記念財団
医療機器・処置が必要な在宅療養者と専門職による災害への備え対策に関する研究	中井 寿雄	看護学部	¥737,450	(補) 委 (公財)在宅医療助成 勇美記念財団
統合失調症患者とその非罹患第1近親者および健常者間における遂行機能の違いについて	片岡 譲	精神神経科学	¥400,000	(補) 委 (公益信託)松原三郎記念精神医学育成基金

計 247

国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申
(注) 1 請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Niida Yo, Ozaki Mamoru, Shimizu Masaki, et al.	ゲノム医療センター	Classification of Uniparental Isodisomy Patterns That Cause Autosomal Recessive Disorders: Proposed Mechanisms of Different Proportions and Parental Origin in Each Pattern	CYTOGENETIC AND GENOME RESEARCH.2018;154:137-146	Original Article
2	Y. Niida, M. Inoue, M. Ozaki, et al.	ゲノム医療センター	Human Malformation Syndromes of Defective GLI: Opposite Phenotypes of 2q14.2 (GLI2) and 7p14.2 (GLI3) Microdeletions and a GLI/R Balance Model.	Cytogenetic and Genome Research.201801;153:56-65	Original Article
3	Shinichi.Kinami, Masazumi.Takahashi, Takashi.Urushihara, et al.	一般・消化器外科学	Background factors influencing postgastrectomy syndromes after various types of gastrectomy	World Journal of Clinical Cases.201812;26:1111-1120	Original Article
4	N.Segami	顎口腔外科学	A modified approach for eminectomy for temporomandibular joint dislocation under local anaesthesia: report on a series of 50 patients	International Journal of Oral & Maxillofacial Surgery.201811;47:1439-1444	Original Article
5	Noboru.Demura, Miho.Hasumoto, Taichi.Demura	顎口腔外科学	Association between the Skull Base and Maxillofacial Morphology in Adults	Journal of Orthodontics & Endodontics.201808(オンライン);4:10	Original Article
6	Goichi Matsumoto, Yoshihiko Sugita, Katsutoshi Kubo, et al.	顎口腔外科学	Evaluation of Gelatin-Hybridized Chelate-Setting Calcium Phosphate Cements in Alveolar Bone Defects of Canine Mandible	Biomedical Journal of Scientific & Technical Research.201804;3:3420-3426	Original Article
7	Koichiro.Kato, Miyako.Shimasaki, Takao.Kato, et al.	顎口腔外科学	Expression of Sphingosine Kinase-1 Is Associated with Invasiveness and Poor Prognosis of Oral Squamous Cell Carcinoma	Anticancer Research.201803;38:1361-1368	Original Article
8	Natsuki.Segami, Hidenao.Ogi, Hideki.Nakayama, et al.	顎口腔外科学	Giant cell reparative granuloma of the mandibular condyle: A rare presentation and literature review	Oral and Maxillofacial Surgery Cases.201812;4:130-134	Case report
9	Noboru.Demura, Miho.Hasumoto, Taichi.Demura	顎口腔外科学	Nonsurgical Orthodontic Treatment of Adolescent Patients with Severe Jaw Deformities	Journal of Clinical Orthodontics.201809;52:477-483	Case report
10	Noboru.Demura, Miho.Hasumoto, Taichi.Demura	顎口腔外科学	Study of Setting Landmarks and Frequency Control on Digital Cephalogram	Journal of Orthodontics & Endodontics.201805(オンライン);4:7	Original Article
11	Noboru.Demura, Miho.Hasumoto, Taichi.Demura	顎口腔外科学	Study on Errors of Cephalographic Measurement Points	Journal of Orthodontics & Endodontics.201805(オンライン);4:6	Original Article

12	N.Segami, T.Nishimura, K.Miyaki, et al.	顎口腔外科学	Tethering technique using bone screws and wire for chronic mandibular dislocation: a preliminary study of refractory cases	International Journal of Oral & Maxillofacial Surgery.201808;47:1065-1069	Original Article
13	Eri Kubo, Teppei Shibata, Dhirendra P. Singh et al.	眼科学	Roles of TGF β and FGF Signals in the Lens : Tropomyosin Regulation for Posterior Capsule Opacity	International Journal of Molecular Sciences.201810 (オンライン);19:3093	Original Article
14	Teppei Shibata, Shinsuke Shibata, Yasuhito Ishigaki, et al.	眼科学	Tropomyosin 2 heterozygous knockout in mice using CRISPR-Cas9 system displays the inhibition of injury-induced epithelial-mesenchymal transition, and lens opacity	Mechanisms of Ageing and Development.201804;171:24-30	Original Article
15	Toru Miyanaga, Yasuo Haseda, Haruhisa Daizo, et al.	形成外科学	A Perifascial Areolar Tissue Graft With Topical Administration of Basic Fibroblast Growth Factor for Treatment of Complex Wounds With Exposed Tendons and/or Bones	The Journal of Foot and Ankle Surgery.2018;57:104-110	Original Article
16	Toru Miyanaga, Yoshimichi Ueda, Aiko Miyanaga, et al.	形成外科学	Angiogenesis after administration of basic fibroblast growth factor induces proliferation and differentiation of mesenchymal stem cells in elastic perichondrium in an in vivo model: mini review of three sequential republication-abridged reports	Cellular and Molecular Biology Letters.201810;23:49	Review
17	Shuichi.Mizuta, Masashi.Sawa, Hisashi.Tsurumi, et al.	血液免疫内科学	Plasma concentration of dasatinib have a clinical impact on the frequency of dasatinib dose reduction and interruption in chronic myeloid leukemia: an analysis of the DARIA 01 study	International Journal of Clinical Oncology.201810;23:980-988	Original Article
18	Shino.Fujimoto, Tomohiro.Koga, Atsushi.Kawakami, et al.	血液免疫内科学	Tentative diagnostic criteria and disease severity classification for Castleman disease: A report of the research group on Castleman disease in Japan	Modern Rheumatology.201801;28:161-167	Original Article
19	Hiroshi Kawabata	血液免疫内科学	The mechanisms of systemic iron homeostasis and etiology, diagnosis, and treatment of hereditary hemochromatosis	International Journal of Hematology.201801;107:31-43	Original Article
20	Muneko.Nishijo, Hideaki.Nakagawa, Yasushi.Suwazono, et al.	健康管理センター	Cancer Mortality in Residents of the Cadmium-Polluted Jinzu River Basin in Toyama, Japan.	Toxics.201804 (オンライン);6:23	Original Article
21	Motono Nozomu, Maeda Sumiko, Honda Ryumon, et al.	呼吸器外科学	Atmospheric temperature and pressure influence the onset of spontaneous pneumothorax.	The clinical respiratory journal.201802;12:557-562	Original Article
22	Motono Nozomu, Kawaguchi Masahito, Kawahara Norio, et al.	呼吸器外科学	Case report of surgical treatment of scoliosis caused by neurofibroma located posterior mediastinum.	International journal of surgery case reports.2018 (オンライン);53:168-170	Case report
23	Usuda Katsuo, Iwai Syun, Funasaki Aika, et al.	呼吸器外科学	Expression and Prognostic Impact of VEGF, CD31 and alpha SMA in Resected Primary Lung Cancers	ANTICANCER RESEARCH.201807;38:4057-4063	Original Article

24	Usuda Katsuo, Funasaki Aika, Sekimura Atsushi, et al.	呼吸器外科学	FDG-PET/CT and diffusion-weighted imaging for resected lung cancer: correlation of maximum standardized uptake value and apparent diffusion coefficient value with prognostic factors.	Medical oncology (Northwood, London, England).201805;35:66	Original Article
25	Uramoto Hidetaka, Motono Nozomu	呼吸器外科学	ICG easily detects not only the segmental plane, but also the course and blood distribution of the bronchial artery" case report".	Annals of medicine and surgery (2012).201802(オンライン);28:28-29	Case report
26	Sekimura Atsushi, Iwai Shun, Funasaki Aika, et al.	呼吸器外科学	Müllerian cyst in posterior mediastinum: A report of a case.	International journal of surgery case reports.2018(オンライン);49:163-165	Case report
27	Motono Nozomu, Funasaki Aika, Sekimura Atsushi, et al.	呼吸器外科学	Prognostic value of epidermal growth factor receptor mutations and histologic subtypes with lung adenocarcinoma.	Medical oncology (Northwood, London, England).2018;35:1.473611111111111	Original Article
28	Hidetaka Uramoto	呼吸器外科学	What is the best drug as a front-line treatment for EGFR activating mutation?	precision cancer medicine.201809;1:1-6	Review
29	Nojiri Masafumi, Mizuno Shiro, Nishiki Kazuaki, et al.	呼吸器内科学	ADRB2 gene polymorphism and emphysema heterogeneity can modulate bronchodilator response in patients with emphysema	Pulmonary pharmacology & Therapeutics.201802;48:80-87	Original Article
30	Osanai Kazuhiro	呼吸器内科学	Rab38 Mutation and the Lung Phenotype.	International journal of molecular sciences.201807(オンライン);19:E2203	Review
31	Watanabe Keisuke, Okuro Masashi, Okuno Tazuo, et al.	高齢医学	Comorbidity of chronic kidney disease, diabetes and lower glycated hemoglobin predicts support/care-need certification in community-dwelling older adults.	Geriatrics & Gerontology International.201804;18:521-529	Original Article
32	Himeno Taroh, Okuno Tazuo, Watanabe Keisuke, et al.	高齢医学	Range in systolic blood pressure and care-needs certification in long-term care insurance in community-dwelling older patients with chronic kidney disease.	JOURNAL OF INTERNATIONAL MEDICAL RESEARCH.201801;46:293-306	Original Article
33	H.Takagi, T.Sasagawa, T.Shibata, et al.	産科婦人科学	Association between 18F-fluorodeoxyglucose-PET/CT and grade of uterine endometrial carcinoma	Taiwanese Journal of Obstetrics and Gynecology.201804;57:283-288	Original Article
34	T.Sasagawa, T.Maehama, Y.Osaka, et al.	産科婦人科学	Comparison of the digene hybrid capture 2 and Roche cobas 4800 HPV tests for detection of CIN2+ in a referral population in Japan	Journal of medical virology.201805;90:972-980	Original Article
35	M.Takakura, T.Matsumoto, M.Nakamura, et al.	産科婦人科学	Detection of circulating tumor cells in cervical cancer using a conditionally replicative adenovirus targeting telomerase-positive cells	Cancer science.201801;109:231-240	Original Article
36	H.Takagi, E.Takata, J.Sakamoto, et al.	産科婦人科学	Malignant Transformation of an Ovarian Endometrioma during Endometriosis Treatment:A Case Report	Case reports in obstetrics and gynecology.201809(オンライン);4:6210172	Case report

37	J.Sakamoto, S.Kamiura, K.Okayama, et al.	産科婦人科学	Single type infection of human papillomavirus as a cause for high-grade cervical intraepithelial neoplasia and invasive cancer in Japan	Papillomavirus Res..201812 (オンライン);6:46-51	Original Article
38	H.Takagi, J.Sakamoto, Y.Osaka, et al.	産科婦人科学	Usefulness of the maximum standardized uptake value for the diagnosis and staging of patients with cervical cancer undergoing positron emission tomography/computed tomography	Medicine.201802(オンライン);97:e9856	Original Article
39	H.Takagi, J.Sakamoto, Y.Osaka, et al.	産科婦人科学	Utility of 18F-fluorodeoxyglucose-positron emission tomography in the differential diagnosis of benign and malignant gynaecological tumours	Journal of medical imaging and radiation oncology.201808;62:471-479	Original Article
40	K Hisamura, E Matsushima, S Tsukayama, et al.	腫瘍内科学	An exploratory study of social problems experienced by ambulatory cancer patients in Japan: Frequency and association with perceived need for help.	Psychooncology.201807;27:1704-1710	Original Article
41	Motoo Y	腫瘍内科学	Ramucirumab plus paclitaxel: a possible new chemotherapy regimen for neuroendocrine carcinoma of the stomach	Internal Medicine.201803;57:631-632	Original Article
42	Y Motoo, K Yukawa, K Hisamura, et al.	腫瘍内科学	Usability of the evidence-based Japanese Integrative Medicine information site: analysis with focus group discussion and internet survey on the general population	Integr Med Res.201809;7:238-247	Original Article
43	Daisuke Sakamoto, Yasuhiro Nagayoshi, Shigeru Sakamoto	循環器外科学	A case of a penetrating cardiac injury caused by a sewing needle	Journal of Kanazawa Medical University.201812 (オンライン);43:57-60	Case report
44	Daisuke Sakamoto, Yasuhiro Nagayoshi, Takanao Ueyama, et al.	循環器外科学	Can acupuncture reduce a transcutaneous risk of infection? II; Non-Transcutaneous acupuncture recovered H FrEF	EC Cardiology.201804;51:192-195	Original Article
45	Daisuke Sakamoto, Yuma Katoh, Yasuhiro Nagayoshi, et al.	循環器外科学	Qualitative Aspect of constitutive regulation by emotional hormone in airway inflammation	EC Paediatrics.201810(オンライン);7:974-984	Original Article
46	Daisuke Sakamoto, Yuma Katoh, Yasuhiro Nagayoshi, et al.	循環器外科学	Quantitative Aspect of Constitutive Regulation by Leucocyte Subsets in Air Way Inflammation	EC Paediatrics.201810(オンライン);7:974-984	Original Article
47	Kouji Kajinami	循環器内科学	Towards Effective Cost-Effectiveness Analysis in Atherosclerotic Cardiovascular Disease Prevention	Circulation Journal.201803;82:954-955	Original Article
48	S.Nishida, H.Yoshizaki, Y.Yasui, et al.	小児外科学	Collagen VI suppresses fibronectin-induced enteric neural crest cell migration by downregulation of focal adhesion proteins.	Biochemical and Biophysical Research Communications.201801;495:1461-1467	Original Article
49	T Shironomae, M Satomi, T Kuwahara, et al.	小児外科学	Congenital duodenal and multiple jejunal atresia with malrotation in a patient with Down syndrome	CONGENITAL ANOMALIES.201803;58:71-72	Case report

50	Masafumi Ota, Tomomitu Tahara, Toshimi Otsuka, et al.	消化器内科学	Association between receptor interacting serine/threonine kinase 2 polymorphisms and gastric cancer susceptibility	ONCOLOGY LETTERS.201803;15:3772-3778	Original Article
51	Takeo.Shimasaki, Satoko.Yamamoto, Tomiyasu.Arisawa	消化器内科学	Exosome Research and Co-culture Study	BIOLOGICAL & PHARMACEUTICAL BULLETIN.201809;41:1311-1321	Review
52	Toshimi Otsuka, Tomomitu Tahara, Masakatsu Nakamura, et al.	消化器内科学	Polymorphism rs7521584 in miR-429 is associated with the severity of atrophic gastritis in patients with Helicobacter pylori infection	Molecular Medicine Reports.201808;18:2381-2386	Original Article
53	Ukichiro.Kawai, Nobuaki.Uchida, Miki.Oono, et al.	神経内科学	Relationship of systemic inflammation and cellular immunity with advancement of cognitive decline in patients with Alzheimer's disease	Clinical&Experimental Neuroimmunology.201808;9:182-188	Original Article
54	Miki.Oono, Yoshimasa.Fujita, Nobuaki.Uchida, et al.	神経内科学	Rheumatoid meningitis developed in patient with stable rheumatoid arthritis and myasthenia gravis-detailed analysis of intracranial inflammation using flow cytometry	Journal of Neuroinflammation.201805 (オンライン);15:151	Case report
55	N.Hayashi, K.Okada, Y.Matsui, et al.	腎臓内科学	Glomerular mannose-binding lectin deposition in intrinsic antigen-related membranous nephropathy	NEPHROLOGY DIALYSIS TRANSPLANTATION.201805;33:832-840	Original Article
56	Nomura-Nakayama K, Adachi H, Miyatake N, et al.	腎臓内科学	High molecular weight adiponectin inhibits vascular calcification in renal allograft recipients	PLoS One.201805 (オンライン);13:e0195066	Original Article
57	Mukai K, Kuda Y, Shibamoto T, et al.	腎臓内科学	Renal response to anaphylaxis in anesthetized rats and isolated perfused rat kidneys: roles of nitric oxide.	The Journal of Physiological Sciences.201809;68:689-697	Original Article
58	Y.Numata, A.Kaneuji, L.Kerboull, et al.	整形外科科学	Biomechanical behaviour of a French femoral component with thin cement mantle	Bone & joint research.201808;7:485-493	Original Article
59	Toru.Ichiseki, Miyako.Shimasaki, Yoshimichi.Ueda, et al.	整形外科科学	Intraarticularly-injected mesenchymal stem cells stimulate anti-inflammatory molecules and inhibit pain related protein and chondrolytic enzymes in a monoiodoacetate-induced rat arthritis model	International journal of molecular sciences.201801;19:203	Original Article
60	Masanobu.Tsuchiya, Toru.Ichiseki, Shusuke.Ueda, et al.	整形外科科学	Mitochondrial stress and redox failure in steroid-associated osteonecrosis	International journal of medical sciences.201801 (オンライン);15:205-209	Original Article
61	Toru.Ichiseki, Shusuke.Ueda, Daisuke.Souma, et al.	整形外科科学	Reverse shoulder arthroplasty for primary synovial osteochondromatosis of the shoulder with massive rotator cuff tear and marked degenerative arthropathy	Journal of clinical medicine.201807 (オンライン);7:E189	Case report
62	Takamitsu Shimada, Kazutaka Ohi, Toshiki Yasuyama, et al.	精神神経科学	Cerebellar activation during a motor task in conversion disorder with motor paralysis: A case report and fMRI study	Neuropsychopharmacology Reports.201803;38:47-50	Case report

63	Kazutka Ohi, Chika Sumiyoshi, Haruo Fujino, et al.	精神神経科学	Genetic Overlap between General Cognitive Function and Schizophrenia: A Review of Cognitive GWASs	International Journal of Molecular Sciences.201811;19:3822	Review
64	Junji Kobayashi, Hiroaki Uenishi, Takanori Wagatsuma	総合内科学	Correlations of Visceral And Subcutaneous Fat Measured by the Dual Impedance Method to ALT,Serum Triglycerides,HbA1c:a Cross-Sectional Study	日本病院総合診療医学会雑誌.201805;14:549-555	Original Article
65	Sumiyo.Akazawa, Yuki.Fujimoto, Mio.Sawada, et al.	総合内科学	Fermented Herbal Decoction Improves a Performance Status of Skin Conditions by Reconstituting Peripheral Capillary	EC Gynaecology.201808;7:284-292	Original Article
66	Munehiro.Kitada, Yoshio.Ogura, Taeko.Suzuki, et al.	糖尿病・内分泌内科学	A low-protein diet exerts a beneficial effect on diabetic status and prevents diabetic nephropathy in Wistar fatty rats, an animal model of type 2 diabetes and obesity	Nutrition & Metabolism.201803(オンライン);15:15:20.doi:10.1186/s12986-018-0255-1. eCollection 2108.	Original Article
67	Munehiro.Kitada, Yoshio.Ogura, Itaru.Monno, et al.	糖尿病・内分泌内科学	A Low-Protein Diet for Diabetic Kidney Disease: Its Effect and Molecular Mechanism, an Approach from Animal Studies	Nutrients.201804(オンライン);10:10(5). pii: E544. doi:10.3390/nu10050544.	Review
68	Asako.Kumagai, Atsuo.Itakura, Daisuke.Koya, et al.	糖尿病・内分泌内科学	AMP-Activated Protein (AMPK) in pathophysiology of Pregnancy Complications	International journal of molecular sciences.201810(オンライン);19:19(10). Pii: E3076; doi:10.3390/ijms19103076.	Review
69	Susumu.Takagi, Jinpeng.Li, Yuta.Takagaki, et al.	糖尿病・内分泌内科学	Ipragliflozin improves mitochondrial abnormalities in renal tubules induced by a high-fat diet	Journal of Diabetes Investigation.201809;9:1025-1032	Original Article
70	Yoshio.Ogura, Munehiro.Kitada, Itaru.Monno, et al.	糖尿病・内分泌内科学	Renal mitochondrial oxidative stress is enhanced by the reduction of Sirt3 activity, in Zucker diabetic fatty rats	Redox Report.201812;23:153-159	Original Article
71	Emi.Kawakita, Keizo.Kanasaki, Taro.Hirai, et al.	糖尿病・内分泌内科学	Severe electrolytes disorders with the interstitial kidney alterations in the patient with the history of total thyroidectomy and parathyroidectomy: possible role of vitamin D deficiency	Clinical Case Reports.201804(オンライン);6:983-989	Case report
72	Keizo.Kanasaki	糖尿病・内分泌内科学	The role of renal dipeptidyl peptidase-4 in kidney disease: renal effects of dipeptidyl peptidase-4 inhibitors with a focus on linagliptin	Clinical Science.201802;132:489-507	Review
73	Matoba M, Tsuji H, Shimode Y, et al.	放射線医学	Diagnostic Performance of Adaptive 4D Volume Perfusion CT for Detecting Metastatic Cervical Lymph Nodes in Head and Neck Squamous Cell Carcinoma	AMERICAN JOURNAL OF ROENTGENOLOGY.201811;211:1106-1111	Original Article
74	Masakuni.Noguchi, Yukako.Ohno, Emi.Morioka, et al.	乳腺・内分泌外科	A novel oncoplastic technique for breast cancer localized in the lower pole of the breast	Journal of Surgical Oncology.201802;177:137-141	Review
75	Yusuke Nakazawa, Nobuyo Morita, Ippei Chikazawa, et al.	泌尿器科学	Ureterosciatic hernia treated with ureteral stent placement	BMJ Case Reports.201805(オンライン);2018:2017-222908	Case report

76	Sakata Yuichi, Taga Fumiaki, Ushigami Tsuyoshi, et al.	皮膚科学	A case of cutaneous mycosis caused by <i>Scedosporium dehoogii</i> on an immunocompromised patient.	Mycopathologia.201804;183:465-470	Case report
77	K.Takeda, K.Anzawa, T.Mochizuki, et al.	皮膚科学	Infant case of tinea faciei caused by <i>Microsporum canis</i>	The Journal of Dermatology.201807;45:e187-e188	Letter
78	Y.Sakata, T.Ushigami, K.Anzawa, et al.	皮膚科学	Molecular epidemiology of <i>Trichophyton tonsurans</i> , the causative dermatophyte of the epidemic of tinea gladiatorum in Japan between 2011 and 2015	Japanese Journal of Infectious Diseases.201803;71:140-144	Original Article
79	Daisuke Usuda , Yoshiki Furumura, Ryusho Sangen, et al.	臨床感染症学	Evaluation of B-type natriuretic peptide as prognostic marker in patients with pneumonia: An observational study	Internal Medicine Review.201803(オンライン);4:1-28	Original Article
80	Usuda Daisuke, Furumura Yoshiki, Takeshima Kento, et al.	臨床感染症学	Interleukin-18 as a diagnostic marker of adult-onset Still's disease in older patients: a case report and review of the literature.	Journal of medical case reports.201807;12:10.1186/s13256-018-1735-7.	Case report
81	H.Minato, E.Kobayashi, S.Nakada, et al.	臨床病理学	Sinonasal NUT carcinoma: clinicopathological and cytogenetic analysis with autopsy findings.	HUMAN PATHOLOGY.201801;71:157-165	Original Article
82	Nozomu Kurose, Chizuru Futatsuya, Ken- Ichi Mizutani, et al.	臨床病理学	The clinicopathological comparison among nodal cases of idiopathic multicentric Castlemans disease with and without TAFRO syndrome.	Human pathology.201807;77:130-138	Original Article
83	Akihiro.Shioya, Xin.Guo, Nozomu.Motono, et al.	臨床病理学	The Combination Of Weak Expression Of PRDX4 And Very High MIB-1 Labelling Index Independently Predicts Shorter Disease-free Survival In Stage I Lung Adenocarcinoma	International Journal of Medical Sciences.201806;15:1025-1034	Original Article
84	Nozomu.Kurose, Michiho.Takenaka , Manabu.Yamashita, et al.	臨床病理学	A case report of infantile cystic nephroblastoma	DIAGNOSTIC PATHOLOGY.201810(オンライン);13:84	Case report
85	Kenichi.Mizutani, Sohsuke.Yamada, Xin.Guo, et al.	臨床病理学	An autopsy case of peripheral T cell lymphoma occurring in a postpartum woman: a unique case suggesting changes in the immunocharacteristics of lymphoma cells before and after delivery	Diagnostic Pathology.201805(オンライン);13:32	Case report
86	Motona.Kumagai, Sohsuke.Yamada, Nozomu.Kurose, et al.	臨床病理学	Benign mesothelial nodules reflux within acquired cutaneous lymphangiectasia associated with huge ovarian clear cell carcinoma.	Pathology international.201801;68:53-55	Case report
87	Nozomu Kurose, Manabu Yamashita, Mariko Nakano, et al.	臨床病理学	Cytopathological findings of proliferating pilomatricoma misdiagnosed as a malignant parotid gland tumor	DIAGNOSTIC PATHOLOGY.201808(オンライン);13:65	Case report
88	Sohsuke.Yamada	臨床病理学	Histopathology on Atherosclerosis to Metabolic Syndrome Using Genetically Modified Animal Models	Journal of Kanazawa Medical University.201806;43:1-8	Original Article

89	Kenichi.Mizutani, Satoko.Nakada, Akira.Tamase, et al.	臨床病理学	Meningioma with Remarkable Multiple Rosette Formation: A Diagnostically Difficult Case	Journal of Medical & Surgical Pathology.201810(オンライン);3:169	Case report
90	Sohsuke.Yamada, Xin.Guo	臨床病理学	Peroxiredoxin 4 (PRDX4): Its critical in vivo roles in animal models of metabolic syndrome ranging from atherosclerosis to nonalcoholic fatty liver disease	PATHOLOGY INTERNATIONAL.201802;68:91-101	Review
91	A.Shioya, K.Saito, N.Kurose, et al.	臨床病理学	Primary enteric-type tubulovillous adenocarcinoma arising in the renal pelvis	Pathology international.201806;68:388-390	Case report
92	Satoko.Nakada, Yasuo.Sasagawa, Osamu.Tachibana, et al.	臨床病理学	The clinicopathological analysis of receptor tyrosine kinases in meningiomas -The expression of VEGFR-2 in meningioma was associated with a higher WHO grade and shorter progression-free survival	Brain Tumor Pathology.201901;36:7-13	Original Article
93	Ken-ichi.Mizutani, Sohsuke.Yamada, Satoko.Nakada, et al.	臨床病理学	Uterine cervical mesonephric hyperplasia with focal cystic change masquerading clinicopathologically as lobular endocervical glandular hyperplasia to malignancy	Human Pathology: Case Reports.201806(オンライン);12:48-51	Case report

計93件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、または et al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名・出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
~					

計 件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有 無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有 無
・ 手順書の主な内容 臨床における倫理方針、職業倫理要綱 患者の権利 臨床倫理の研修 臨床倫理問題 高難度新規医療技術の導入 未承認新規医薬品等を用いた医療	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 2 回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有 無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有 無
・ 規定の主な内容 産学官連携活動等における利益相反に関する状況に適正に対処することにより、本学及び教職員等の社会的信用及び名誉を保持することを目的とする。 利益相反マネジメント委員会では以下の事項を審議する。 (1) 利益相反マネジメントポリシー及び規程等に関する事項 (2) 利益相反問題の適切な対処に関する施策の検討及び実施 (3) 自己申告書の内容の検討及び調査 (4) 利益相反マネジメントの実施のために必要な状況調査 (5) 前号の調査で得られた情報の評価 (6) その他利益相反に関する事項	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 2 回

- (注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 16 回
<p>・ 研修の主な内容</p> <p>臨床研究法への対応説明会『臨床研究法に対応した審査の流れについて』平成30年6月25日開催 治験・臨床研究の倫理に関する教育研修会『科学者と医療者の倫理学～キュアとケアのはざま～』平成31年3月18日開催 臨床研究セミナー（名古屋大学医学部附属病院（中部円環コンソーシアム）からのライブ配信）を年14回開催（1～2回／月）</p> <p>研究者は、薬機法、GCP、臨床研究法等の法令及び「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」等の各研究倫理指針を遵守しなければならない。「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」では、研究者は研究に先立ち、研究実施に必要な研究倫理の講習・研修を適宜かつ継続的に受けなければならないとされている。そこで、当センターでは全教職員を対象に上記講習会を開催した。</p>	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

本院の後期臨床研修（専門研修）では、総合診療専門医を含む各領域の専門医を目指すキャリアに柔軟に対応するプログラムを準備している。医師として本院で働きながら大学院への進学も可能であり、海外留学についても積極的に支援を行っている。2年間の初期臨床研修で修得した知識と技術を基礎に、各診療科に関連した学会の専門医・指導医の資格を有する教授、准教授、講師などの強力な指導体制のもと、さらに高度な医療を身につけることを目指している。

具体的には、診療科毎に日本専門医機構の承認を受けた研修プログラムを組んでいる。各診療科における研修内容及び到達目標は、専門医の取得である。本院の特徴は全ての基本領域に関するプログラムが用意されている事であり、あらゆる将来の選択が可能である。後期臨床研修においてもローテート枠を設けており、また、専門科間、職種間のカンファレンスが日常的に行われている。各診療科における①後期臨床研修プログラムの目的、②後期臨床研修プログラム修了後のコース、③時間割、研修内容及び到達目標、④取得できる、専門医（必要な期間）資格とその取得にかかわる概要、⑤週間スケジュール等の詳細については、本院臨床研修センターが作成する「専門研修プログラム集」（後期臨床研修医）の冊子に示している。

なお、大学院への進学については、平成24年度から初期臨床研修医2年次からの大学院進学が可能となり、後期臨床研修医採用の魅力となっている。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	107 人
-------------	-------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
梶波 康二	循環器内科	診療科長	35 年	
土屋 武嗣	心血管カテーテル治療科	診療科長	30 年	
坂本 滋	心臓血管外科	診療科長	40 年	
坂本 滋	末梢血管外科	診療科長	40 年	
安藤 誠	小児心臓血管外科	診療科長	28 年	
水野 史朗	呼吸器内科	診療科長	24 年	
浦本 秀隆	呼吸器外科	診療科長	24 年	
有沢 富康	消化器内科	診療科長	35 年	
土島 睦	肝胆膵内科	診療科長	33 年	
伊藤 透	消化器内視鏡科	診療科長	35 年	
小坂 健夫	一般・消化器外科	診療科長	39 年	
野口 昌邦	乳腺・内分泌外科	診療科長	42 年	
横山 仁	腎臓内科	診療科長	38 年	
宮澤 克人	泌尿器科	診療科長	35 年	
古家 大祐	内分泌・代謝科	診療科長	36 年	
正木 康史	血液・リウマチ膠原病科	診療科長	29 年	
松井 真	神経内科	診療科長	38 年	
飯塚 秀明	脳神経外科	診療科長	39 年	

大黒 正志	高齢医学科	診療科長	23年
元雄 良治	腫瘍内科	診療科長	39年
犀川 太	小児科	診療科長	31年
河野 美幸	小児外科	診療科長	37年
川崎 康弘	神経科精神科	診療科長	34年
川崎 康弘	心身医学科	診療科長	34年
的場 宗孝	放射線科	診療科長	25年
的場 宗孝	放射線治療科	診療科長	25年
川原 範夫	整形外科	診療科長	36年
島田 賢一	形成外科	診療科長	25年
佐々木 洋	眼科	診療科長	32年
三輪 高喜	耳鼻咽喉科	診療科長	36年
辻 裕之	頭頸部・甲状腺外科	診療科長	38年
望月 隆	皮膚科	診療科長	37年
笹川 寿之	産科婦人科	診療科長	36年
高橋 完	麻酔科	診療科長	27年
中川 敬夫	リハビリテーション医学科	診療科長	29年
和藤 幸弘	救命救急科	診療科長	36年
山田 壮亮	病理診断科	診療科長	18年
飯沼 由嗣	感染症科	診療科長	31年
出村 昇	歯科口腔科	診療科長	35年
浅地 孝能	健康管理センター	センター長	35年
中橋 毅	総合診療センター	センター長	29年
森本 茂人	認知症センター	センター長	41年
野口 昌邦	乳腺センター	センター長	42年

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容 「医療従事者に対する緩和ケア研修会」・研修の期間・実施回数 平成30年9月30日 年1回・研修の参加人数 38名（医師35名、看護師2名、薬剤師1名）

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2) 現状
管理責任者氏名	病院長 北山道彦
管理担当者氏名	医事担当副部長 山野清一、情報管理課長 大家英治、 病院管理(管理)担当課長 中村光宏、病院管理(人事担当)課長 原章文 医療安全課長 岡山均

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録	項 規則第二十一条の三第二項に掲げる事項	病院日誌	【診療録】 患者登録は初回来院時の登録番号(7桁)を基準として、1患者1番号で生涯有効性を採用し、1患者の入院と外来の全病歴を電子媒体により保存・管理している。 。診療録の利用に当たり、管理場所以外へ診療録を移動すること、また利用者間で診療録をまた貸出することは「診療録貸出規定」にて禁止事項となっています。	
		各科診療日誌		
		処方せん		
		手術記録		
		看護記録		
		検査所見記録		
		エックス線写真		
		紹介状		
病院の管理及び運営に関する諸記録	三 規則第二十一条の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	病院管理課(人事担当)	
		高度の医療の提供の実績		医事課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績		医事課
		高度の医療の研修の実績		臨調試験治験センター
		閲覧実績		病院管理課(管理担当)
		紹介患者に対する医療提供の実績		地域医療連携事務課
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿		病院管理課(管理担当)、薬剤部
	一 規則第一条の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全課	本学における文章保存規程に定められた期間、施錠できる書庫にて保管。
医療に係る安全管理のための委員会の開催状況		医療安全課		
医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況		医療安全課		
医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況		医療安全課		

		保管場所	管理方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	医療安全課	本学における文章保存規程に定められた期間、施錠できる書庫にて保管。
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医療安全課	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医療安全課	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全課	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	医療安全課	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	ME部、医療安全課	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	ME部	
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	ME部			
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	ME部			

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全課
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医療安全課
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	医療安全課
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	情報管理課
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	情報管理課
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全課
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全課
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療安全課
		監査委員会の設置状況	医療安全課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全課
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全課
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全課
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全課
		職員研修の実施状況	医療安全課
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全課
		管理者が有する権限に関する状況	病院管理課（管理担当）
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	医療安全課		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務課		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	② 現状
閲覧責任者氏名	医療情報担当副院長 横山 仁	
閲覧担当者氏名	医事課診療情報担当副部長 山野清一 (診療記録)	
閲覧の求めに応じる場所	医事課診療情報担当 (病歴) 事務室内	
閲覧の手続の概要 電子カルテシステム稼働 (平成 12 年) 以前の紙の診療録の貸出しについては、貸出日の前日までに貸出依頼票を医事課診療情報担当事務に提出し、医療情報部長の許可を受けて行ないます。貸出期間は 2 日以内ですが、死亡患者については 7 日以内となっています。 当該患者の診療のため診療録が必要となった場合を除き診療録の閲覧場所は医事課診療情報担当 (病歴) 事務室内で行ないます。 診療録の利用に当たり管理場所以外へ診療録を移動すること、また利用者間で診療録をまた貸しすることは「診療録貸出規程」にて禁止事項となっております。		

(注) 既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	66 件
閲覧者別	医 師	延 66 件
	歯 科 医 師	延 0 件
	国	延 0 件
	地方公共団体	延 0 件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

<p>① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況</p>	<p>☒有・無</p>
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>医療事故防止に関する安全管理体制の指針（以下「指針」という。）は医療事故防止に関する安全管理体制、安全管理体制に関する関係規程及び医療事故防止に関する共通及び部門マニュアルの3部構成をとっている。</p> <p>指針は、医療事故防止に関する病院の方針、用語の定義、医療事故の防止体制、医療事故発生時の対応、インシデントレポートに関する基本事項、医療事故防止規程・マニュアルの整備、医療事故防止に関する職員の研修、患者暴力行為への対応、安全管理体制に関する組織図等、医療事故報告書様式など医療事故防止に係る基本的事項を収載している。</p>	
<p>② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況</p>	
<p>・ 設置の有無（ ☒有・無 ）</p> <p>・ 開催状況：年 24回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>* 医療安全対策小委員会：年12回／月1回開催（第3水曜日） 医療安全対策小委員会は医療安全管理室長を委員長に配し、医療安全管理者、内科系・外科系・小児科等の医師、看護師、薬剤師、医療技術職員及び事務職員で構成され、医療安全管理者が決めたテーマや各部門に共通するようなインシデント事例を抽出して事例検討を行う。小委員会では、インシデントに至る状況、要因、影響等について、徹底的に分析・検討し、改善策や再発防止対策を洗い出す。また、その結果を医療安全対策委員会に小委員会からの事例報告として報告・提案・注意喚起するとともに、システムの改善で防止できるものであれば担当部署に委員会として改善を要望する。</p> <p>* 医療安全対策委員会：年12回／月1回開催（第4火曜日） 医療安全対策委員会は各部門・各部署の部門セーフティマネージャー（病棟医長、部長、看護師長、技師長、課長相当職）で構成されている。インシデント情報の収集結果、状況別・原因別集計表及び医療安全対策小委員会から報告されるインシデント事例の分析・検討結果及び改善策、医療問題検討委員会で検討された医療事故に関してそれぞれの部門・部署に周知すると共に情報を共有し、事故の防止に努める。さらに、診療科、病棟、薬剤部、ME部他関連する部署のスタッフが、それぞれの部署でのインシデント事例について、それぞれの職種の立場を超えて分析・検討するインシデント分析検討会を定期的に行っており、その内容について毎回2～3グループの代表者が報告する。他に指針・マニュアルの改正、医療安全院内ラウンド、全体職員・セーフティマネージャー研修会、医療安全アンケート、その他医療安全に係る事項についての審議・結果報告を行う。</p> <p>委員会の議事録及び資料は、各委員及び全セーフティマネージャーに配付し所属職員全員に周知するよう回覧を行い、読んだ者はサインするようにしている。他に、電子カルテ上とイントラネット「病院職員のページ」にも委員会の議事録を掲載している。</p>	

③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 6 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容（すべて）： <p>《全体研修》：2回</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 「CT・MRI検査時の注意点について」、「医薬品の安全管理」、「ヒューマンエラーについて」 2) 「リスクマネジメントの考え方：基本に立ち返って」対策の取り決め <p>《新規採用者研修》：3回</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 新人看護師オリエンテーション 2) 初期臨床研修医オリエンテーション 3) KYT分析（危険予知トレーニング） <p>《中途採用者研修》：1回</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 中途採用者研修 	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関内における事故報告等の整備（☒有・無） ・ その他の改善のための方策の主な内容： <p>医療安全管理者が、医療事故報告書とインシデントレポートの報告内容を確認するため、現場状況調査を行い事象の分析を通して問題点を把握する。 また、各部署より医療安全に関する業務改善計画を年3回（①初期計画（5月）、②中間報告（10月）、③最終評価（3月））に提出してもらい、その都度評価と改善策の検討を行っている。 さらに、院内ラウンドとセーフティマネージャーカンファレンスを実施し、各部署から提出された業務改善計画の実施状況の確認を行っている。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 院内感染に対策に関する基本的な考え方 2. 院内感染対策のための委員会およびその他組織に関する基本的事項 3. 院内感染対策のための職員等に対する研修に関する基本方針 4. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針 5. 院内感染発生時の対応に関する基本方針 6. 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 7. その他院内感染対策推進のために必要な基本方針 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 院内感染事例への対応に関する事項 2. サベイングデータに基づく、院内感染発生状況の把握と対策に関する事項 3. 抗菌薬適正使用に関する事項 4. 院内感染対策に係る緊急事態（重大な感染事例発生等）への対応に関する事項 5. 院内感染防止対策に係る教育啓発に関する事項 6. 感染対策マニュアルの改訂に関する事項 7. その他、院内感染防止対策に関する協議検討報告事項 <div data-bbox="1070 665 1425 786" style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>【H30年度委員会の開催】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 月1回年間12回の定例開催 ・ 委員数 29名 ・ 平均出席率 89.1% </div>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 61 回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <p>【全職員対象】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 「当院における院内感染対策の課題と対応」 開催日時：平成30年5月15日（木） 講師：飯沼由嗣 感染制御室室長 / 日向千恵子 看護部師長ICN / 中川佳子 感染制御室ICN 2) 「大人も注意が必要な小児の感染症への対策～麻疹・風疹、RSウイルスなど～」 開催日時：平成30年1月26日（金） 講師：宮入烈 国立成育医療センター 生体防御系内科部 感染症科診療部長 感染制御部統括部長 <p>【新採用者対象】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 全員「新入職員リエンション」 開催日：平成30年4月2日 2) コメディカル対象 開催日：平成30年4月2日 3) 研修医対象 開催日：平成30年4月9日、10日 4) 新人看護職員研修 開催日：平成30年4月5日、10日 <p>【その他】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 帰局職員及び中途採用者対象 開催日：平成30年10月19日 2) 清掃委託業者「院内環境清掃のポイント」 開催日：平成30年4月26日、 3) 標準予防策の遵守に関する全職員対象講習会（Standard Precaution Training：SPT） 標準予防策に関する基本教育講習を全職員（業務委託業者を含む）対象に、拡大必修化し、標準予防策の遵守率向上および金沢医科大学病院における医療の安全、質の向上を目指すため、<u>部門毎</u>に20～30分間の手指衛生、防護具の着脱についての実習形式の教育講習を実施（H29.8～H30.5にかけて） <p>※その他、看護部依頼の研修、各部署向け研修等は必要時、その都度行っている</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 （有・無）</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 感染症事例の情報の感染制御室への集約と、迅速な現場への指示および実施状況の確認。 2. 全病棟対象のICTラウンドの実施による感染対策遵守状況の確認と改善のための助言。 3. 感染症サーベイランスの導入と関係部署への定期的なフィードバック。 4. 耐性菌サーベイランスの実施によるアウトブレイクの早期発見、感染症患者に対する感染対策の指示。 5. すべての職業感染事例に対する対応と予防対策への助言、針刺し防止器材の積極的な導入と評価。 6. 病院職員を対象とした、ワクチン接種、抗体価測定。 7. 月例の感染対策上問題となった事例の報告と全部署への周知徹底 8. 全職員対象の感染対策講演会の他、職種別、部署別など様々な教育啓発活動の実践。 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>1) 医薬品の安全管理 2) 新入職員、中途採用者、復職者のための医薬品の安全管理</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 (有・無)</p> <p>・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容：</p> <p>医薬品の採用・購入に関する事項 医薬品の管理に関する事項 患者の持参薬歴情報の収集方法 処方箋の記載方法 調剤方法及び監査方法 患者に対する与薬や服薬指導に関する事項 医薬品の安全使用に係る情報の取扱いに関する事項 他施設（病院・薬局等）との連携に関する事項</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無)</p> <p>・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）：</p> <p>サンドスタチン皮下注用100μgの胸部大動脈瘤手術に伴う頸部リンパ漏の治療（適応外） ドセタキセル/ゲムシタビンの子宮平滑筋肉腫 術後補助療法（適応外）</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>PMDAメディナビの登録、インターネット（メーカー・卸）からの情報収集、MR・MSからの紙ベースでの情報収集、医薬品情報の院内周知と周知状況の確認</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 76 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>機器研修はH19.3.30医政局通知（有効性、安全性、使用方法、保守、不具合時の対応、法令上の遵守事項。2回／年）に従っている。人工呼吸器等の主要ME機器については医療安全部、看護部、ME部（当院の機器管理部門）等が協力、連携し機器研修を実施している。（平成30年度の機器毎の研修等の実施回数 76回、参加延べ人数約1400名）</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る計画の策定 （ 有・無 ）</p> <p>・ 機器ごとの保守点検の主な内容：</p> <p>人工心肺装置、補助循環装置、人工呼吸器、血液浄化装置、除細動器、保育器、高エネルギー放射線装置、診療用放射線照射装置及びその他主要ME機器の年間点検計画を策定し機器マニュアル、メーカー指示（点検内容、頻度）に従って各機器のチェックシートを作製し臨床工学技士が通常点検を実施している。また人工呼吸器は通常点検に加えてメーカー推奨の使用時間毎にメーカー定期点検を実施している</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 （ 有・無 ）</p> <p>・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）：</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>機器メーカー、臨床工学技士会、機器等納入業者及び医薬品医療機器総合機構（PMDA）のホームページ、またはPMDAからのメール配信サービスより各種関連情報を入手し関連部門へメール、通達回覧し、必要時には担当ME技士及びメーカーSEにより直接、当該部門で改善指導を行っている。また、全体に関わる事案については医療安全委員会議（各部門リスクマネージャ全員出席）で報告、説明、注意喚起等を実施している。また機器管理部門（当院ではME部）では定期的に部内で機器保守管理検討会を実施し医療機器の効果的な保守点検管理に努めている。ME機器はME部で中央管理とし、機種を統一している</p>	

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・ 責任者の資格（☒医師・歯科医師）</p> <p>・ 医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>当院の医療安全管理責任者は、医療安全を担当する副院長が就任しており、医療安全部長を兼務している。医療安全部には、医療安全管理者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理者、兼任セーフティマネージャー等が所属しており、医療安全管理責任者が中心となり、週1回程度カンファレンスを実施し、院内における医療安全対策に対する取組の評価を行っている。また、医療安全対策委員会、医療問題検討委員会の副委員長を兼任しており、医療事故防止や医療安全改善事項等について審議している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（5名）・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>① 医薬品の安全使用に関わる手順書の作成・改訂</p> <p>② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修会の実施</p> <p>③ 医薬品の業務手順書に基づく業務実施内容の確認と改善策の実施</p> <p>④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集</p> <p>⑤ その他の医薬品の安全確保の目的と改善策の実施</p> <p>・ 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>① 医薬品安全使用のための業務に資する情報の整理、周知及び当該周知状況の確認</p> <p>② 未承認等の医薬品の使用状況の把握のための体系的な仕組みの構築、運営</p> <p>③ 未承認等の医薬品の使用の必要性等の検討状況の確認、必要な指導、結果の共有</p> <p>④ 上記措置を適切に実施するための担当者の定め</p> <p>・ 担当者の指名の有無（☒有・無）</p> <p>・ 担当者の所属・職種：</p> <p>（所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師 ） （所属： ， 職種 ）</p> <p>（所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師 ） （所属： ， 職種 ）</p> <p>（所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ）</p> <p>（所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ）</p>	

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	☒ ・無
<ul style="list-style-type: none"> ・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (☒・無) ・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：医療行為を行なうに当たり患者等に対して説明書による説明と同意を取得すること定めており、患者氏名、患者番号、説明を行った日付、診断名、病状の説明、診療行為の目的と内容、行為に伴う副作用・危険性及び予後、患者の確認及び同意の記載、同意した日付、患者本人並びに代理人の署名、同席した医療者名等について、診療情報管理士が記載漏れや記載の誤りを確認して該当の診療科及び部署に注意を促しています。 	
⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	☒ ・無
<ul style="list-style-type: none"> ・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： <p>診療録の記載内容に関する質的監査は、入院診療計画書、入院経過要約、毎日のプログレス記載、フォローアップの記載、治療内容の記載、周術期記録、手術及び麻酔、輸血に関する説明及び同意書等の有無などについて診療情報管理士が評価（量的監査）した後、主治医以外の医師により傷病の特徴、傷病の問題点、一般的な傷病との違い、今後の治療方針並びに考察、経過に関する評価及び問題点について診療内容との整合性や適正に記載されているかなどを評価（質的監査）します。監査の結果は、診療科にフィードバックして注意を促しています。</p>	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	☒ ・無
<ul style="list-style-type: none"> ・所属職員：専従（10）名、専任（ ）名、兼任（7）名 うち医師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（3）名 うち薬剤師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（1）名 うち看護師：専従（2）名、専任（ ）名、兼任（1）名 （注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること ・活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 各部門の医療安全対策の実施状況の評価を行い、業務改善計画書を作成する。計画書に基づく実施状況及び評価結果を記録し保管を行う。 2. 院内医療安全の推進に係る医療安全対策委員会、医療安全対策小委員会、医療問題検討委員会、医療事故調査委員会等で用いられる資料及び議事録の作成保存、庶務に関すること。 3. インシデント及びアクシデントレポート等に関する集計・分析・調査を行い、医療事故防止のための改善策の策定・実施及び周知を行う。 4. 医療事故発生時の対応及び原因究明、診療情報の記載が適切に実施されていることを確認すると共に指導を行う。 5. 院内ラウンドを実施して、医療安全に関する周知状況の調査及び部署の改善事項について必要な指導を行う。 6. 医療安全管理体制を確保するための職員研修の企画・運営を行い、実績を記録する。また、職員の医療安全向上状況に関する意識の認識についてモニタリングを平時から行う。 7. 医療安全対策委員会の構成員及び必要に応じて各部門の医療安全管理の担当者等を参加させて医療安全対策の取組に係る評価等を行うカンファレンスを週1回程度開催する。 	

8. 医療安全管理部門の構成員による医療安全対策推進に関するカンファレンスを週1回程度開催する。
9. 医療安全相談に関し、患者等の相談件数及び相談内容、相談後の取扱いを記録する。
10. 医療の安全に関する最新情報及び警鐘事例について、職員へ周知を行う。
11. その他、医療安全対策の推進に係る指導と連絡調整等に関すること。

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（2件）、及び許可件数（2件）
- ・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（ ・ 無 ）
- ・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ ・ 無 ）
- ・ 活動の主な内容：
 1. 申請内容を確認し評価委員会に対して当該高難度新規医療技術の提供の適否及び実施を認める条件等について意見を求める。
 2. 評価委員会の意見を踏まえ、当該高難度新規医療技術の提供の適否等について決定し、申請者に対しその結果を通知する。
 3. 提供された高難度新規医療技術を定期的に確認し、患者が死亡又は重篤な合併症を発症した場合に診療録等の記載内容を確認する。
 4. 高難度新規医療技術が適正な手続きに基づいて提供されていたかどうか、従業者の遵守状況を確認し管理者に報告する。
 5. 関係する資料、記録を5年間保存する。
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ ・ 無 ）
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（ ・ 無 ）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（2件）、及び許可件数（2件）
- ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（ ・ 無 ）
- ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ ・ 無 ）
- ・ 活動の主な内容：
 1. 申請内容を確認し評価委員会に対して当該未承認新規医薬品等を用いた医療の提供の適否及び実施を認める条件等について意見を求める。
 2. 評価委員会の意見を踏まえ、当該未承認新規医薬品等を用いた医療の提供の適否等について決定し、申請者に対しその結果を通知する。
 3. 提供された未承認新規医薬品等を用いた医療を定期的に確認し、患者が死亡又は重篤な合併症を発症した場合に診療録等の記載内容を確認する。
 4. 未承認新規医薬品等を用いた医療が適正な手続きに基づいて提供されていたかどうか、従業者の遵守状況を確認し管理者に報告する。
 5. 関係する資料、記録を5年間保存する。
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ ・ 無 ）

<ul style="list-style-type: none"> ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (☒ ・無)
<p>⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 270 件 ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 59 件 ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容 <p>院内における医療安全管理対策を総合的に立案及び実施するため、各部門の安全管理のための責任者で構成される。院内で発生した医療事故、及び全死亡例の検証等を行い報告が適切に行われているかを確認し、その結果を病院長へ報告する。月2回開催されるとともに、重大な問題が発生した場合は適宜開催される</p>
<p>⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の特定機能病院等への立入り (☒ (病院名： 産業医科大学病院) ・無) ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ (☒ (病院名： 産業医科大学病院) ・無) ・技術的助言の実施状況 <p>放射性医薬品の安全管理・安全使用の体制確保に向けて、放射性医薬品取り扱いガイドライン講習会を定期的に受講し、放射性医薬品管理者の配置をご検討ください。</p>
<p>⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体制の確保状況 <p>患者相談支援窓口を設置し窓口の一本化を図り、患者や家族からの医療安全を含めた様々な相談に対応している。 窓口の設置場所、相談担当者等については、ポスターを院内に掲示している他、入院案内パンフレット、病院ホームページにも掲載し周知を行っている。 月1回、各担当者が集まり合同カンファレンスを開催、さらに電子カルテの「サポート記録シート」を作成し、情報の共有を図っている。 相談内容については、個人情報保護の方針に基づいた取扱いを行っている。</p>
<p>⑫ 職員研修の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修の実施状況 <p>インシデント・アクシデントの報告ルール、全死亡例の報告、死亡以外一定以上の事例の報告、医療安全情報報告システム（内部通報窓口）の説明</p>

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

- ※管理者、医療安全管理責任者
H30年度特定機能病院管理者研修会受講
- ※医薬品安全管理責任者
H30年度 医薬品安全管理責任者等講習会
- ※医療機器安全管理責任者
H30年度 医療安全研修会

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

規則第7条の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

<p>管理者に必要な資質及び能力に関する基準</p> <ul style="list-style-type: none"> 基準の主な内容 <p>病院長候補者となることができる者は、人格が高潔で、学識とも優れ、病院経営を適切かつ効果的に運営ができる能力を有する者とする。 医療安全業務に従事した経験がある。</p> 基準に係る内部規程の公表の有無（有・☐無） 公表の方法 <p>今後、金沢医科大学病院長任用規則の改定を行ったうえで、病院ホームページで公開する予定である。</p> <p>※令和2年度の管理者選考に合わせ、令和元年度中に改定予定。</p>
--

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有・ ☐ 無			
<ul style="list-style-type: none"> 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（有・無） 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（有・無） 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（有・無） 公表の方法 				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
				有・無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	有・無
<p>・合議体の主要な審議内容</p> <p>病院の重要事項である管理運営方針、中期計画、予算等を審議し、本学病院の設置目的、医療提供の理念及び基本方針に基づく管理運営を的確かつ円滑に行う。</p> <p>・審議の概要の従業者への周知状況</p> <p>病院運営会議で承認された事項は、病院部科長会並びに病院連絡会において報告され、職員への周知を行っている。</p> <p>・合議体に係る内部規程の公表の有無（有・無）</p> <p>・公表の方法 今後、金沢医科大学病院運営会議規程を病院ホームページで公開予定である。</p> <p>・外部有識者からの意見聴取の有無（有・無）</p>	
合議体の委員名簿	

氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
北山 道彦	○	医師	病院長
横山 仁		医師	副院長
坂本 滋		医師	副院長
伊藤 透		医師	副院長
辻 裕之		医師	副院長
犀川 太		医師	副院長
中村真寿美		看護師	副院長（看護部長）
山下 和夫		事務職	副院長（病院事務長）
島崎 猛夫		医師	医療情報部長
神戸 晃男		理学療法士	医療技術部長
政氏 藤玄		薬剤師	薬剤部長
石田 豊司		事務職	事務局長（病院長補佐）
亀井 淳平		事務職	病院事務部長
北 久直		事務職	医療安全担当部長
山野 清一		事務職	医事担当副部長
中村 光宏		事務職	病院管理課長
堀 有行		医師	オブザーバー (医学教育センター長)

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有・）
- ・ 公表の方法
今後、金沢医科大学病院病院長規程を病院ホームページで公開予定である
- ・ 規程の主な内容
管理者の有する病院の管理運営上必要な権限及び職務について定めている。
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
※副院長（金沢医科大学病院副院長任用規程）
病院長を補佐し、また病院長に事故あるときはその職務を代行する。
診療担当、ドック・危機管理担当、中央手術部担当、医療連携・医事・医療安全担当、総務・臨床教育担当、医療情報担当、渉外業務担当、看護担当、病院事務担当と各副院長に職務の分担を行っている
※病院長補佐（金沢医科大学病院病院長補佐任用規程）
病院長が指示した事項について調査・企画・立案するとともに、その実施に関して病院長の職務を補佐する。一般病院業務について補佐している
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
特定機能病院管理者研修会、認定看護管理者教育課程 サードレベル、事務職員管理者研修

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	☒ ・無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年 2 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>金沢医科大学病院における医療安全管理の取組状況について医療法施行規則第15条の4の規程に基づき監査を行い、必要な是正措置を含む助言及び指導等を行う</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（ ☒・無 ）</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無（ ☒・無 ）</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無（ ☒・無 ）</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（ 有・☒ ）</p> <p>・ 公表の方法： 今後、金沢医科大学病院医療安全管理業務監査委員会規程を病院ホームページで公開する予定である</p>	

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
山崎 光章	富山大学附属 病院 麻酔科教授	○	医療安全業務従 事者	有・ ☒	1
鵜澤 剛	金沢大学大学 院法務研究科 准教授		法律学業務従事 者	有・ ☒	1
市川 政枝	金沢星稜大学 人間科学部 元非常勤講師		医療を受ける者	有・ ☒	2
				有・無	
				有・無	
				有・無	

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

学校法人金沢医科大学監事監査規程において、監事が事業年度の初めに策定する監査計画に基づき書面監査・実地監査等を行い、理事会において報告している。

・ 専門部署の設置の有無 (有 ・ 無)

監事

・ 内部規程の整備の有無 (有 ・ 無)

学校法人金沢医科大学監事監査規程

・ 内部規程の公表の有無 (有 ・ 無)

・ 公表の方法

今後、学校法人金沢医科大学監事監査規程を病院ホームページで公開する予定である。

規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 理事会において、病院長（病院担当理事）が、病院の管理・運営体制や、重点事業等について報告し、理事会からの監督・確認が行われている ・ 会議体の実施状況（年 3 回） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（☒・無）（年 3 回） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（☒・無） ・ 公表の方法 学校法人金沢医科大学寄付行為は大学ホームページにおいて公開しており、今後、金沢医科大学病院病院長規程を病院ホームページで公開する予定である 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (☒ ・ 無)・ 通報件数 (年 0 件)・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (☒ ・ 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (☒ ・ 無)・ 周知の方法 職員研修会及び医療安全院内ラウンド時に周知及び周知状況について確認している。 また、大学のイントラネットに掲載している。

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	☒ 有・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 病院機能評価機構（一般病院2 3rdG Ver. 1.1）平成30年1月22日更新認定	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	☒ 有・無
・情報発信の方法、内容等の概要 病院の理念、基本方針や自院の役割、診療機能等を病院広報誌やホームページで情報発信している	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	☒ 有・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 電子カルテによる診療科の他科外来への対診依頼体制	